

大阪キリスト教短期大学・頌栄短期大学
相互評価報告書

平成 26 年 3 月

目 次

1.	はじめに	1
	相互評価に関する協定書（写し）	2
2.	両短期大学の概要	3
	(1) 大阪キリスト教短期大学概要	3
	(2) 頌栄短期大学概要	4
3.	相互評価会議	6
	(1) 大阪キリスト教短期大学での相互評価会議	6
	(2) 頌栄短期大学での相互評価会議	20
4.	相互評価結果	41
	(1) 大阪キリスト教短期大学に対する総括講評	41
	(2) 頌栄短期大学に対する総括講評	45
5.	おわりに	50

1. はじめに

頌栄短期大学学長 阿部 恩

2013年度、大阪キリスト教短期大学と頌栄短期大学は相互評価を行いました。キリスト教を建学の精神としており、幼児教育学科と保育科という同系列による相互評価を行い、お互いに学び合い認め合い刺激し合っの相互評価の結果を、ここに相互評価報告書として纏めることが出来ますことを嬉しく思い、関係各位のご努力に敬意を表します。

2010年7月に大阪キリスト教短期大学をお訪ねし、2012年度の相互評価実施で覚書を交換いたしました。しかし2012年度は厚生労働省の指導による保育士養成課程のカリキュラム改訂初年度にあたりました。2011年度は両短期大学共、このカリキュラム改編作業に追われ、その結果無事に2012年度を開始できました。そのような状況下で動き始めた新カリキュラムへの点検・検証作業も、この年度にはごく自然に要求されつつ教育活動に邁進してまいりました。

このような状況を鑑み、頌栄短期大学で相互評価実施について改めて協議し、新カリキュラム完成年度を経て後の、少し落ち着いた時期での相互評価が望ましいのではないかとの結論を、津村春英前学長にご相談いたしました。この点を快く了解していただき、2013年度に相互評価を行うことで合意いたしました。

2013年2月大阪キリスト教短期大学において、2013年度の相互評価実施を確認し、日程を確認しての打ち合わせ会議を持ちました。両短期大学の自己点検・評価報告書交換から、それに伴う質問項目の交換、そして相互訪問、相互評価文書交換を経て、今ここに大阪キリスト教短期大学と頌栄短期大学の相互評価報告書が整えられました。

相互に自己点検・評価報告書を交換し、相互に訪問しての質問と返答によって学ぶことの多かったことを実感しています。同系列の教育プログラムを有しながら、学生への対応は異なり、大いなる気づきと反省、また将来への改革・変革への希望を実感して終えることが出来たと思います。文部科学省からのやらなくてはならないプログラムという意味ではなく、まさに新しい自己点検の視点を与えられたのが今回の相互評価でした。この機会を大阪キリスト教短期大学と共有できましたことに改めて感謝しております。

頌栄短期大学の自己点検・評価報告書は従来、各部・各委員会報告を冊子として纏めたものでしたが、今回第三者評価受審を見据え、第2クールに入った第三者評価形式を用いることを大阪キリスト教短期大学とも確認し、また合意しての相互評価でしたが、これもお互いに実りある結果を得られたと確信しています。

改めて、大阪キリスト教短期大学に敬意を表し、学長池田美芽先生はじめ諸先生方、スタッフの皆様にご心からお礼を申し述べ、今後ますます地域での良き教育の業が展開され、さらなるご発展を心より祈念いたします。

相互評価に関する協定書（写し）

相互評価に関する協定書

頌栄短期大学と大阪キリスト教短期大学は、学校教育法第 109 条に基づき、短期大学の教育・研究水準の向上に資するため相互評価を行うこととし、次のとおり協定を締結する。

1 相互評価の実施方法

両短期大学で協議し合意した事項について、相互に相手校を訪問して相互評価を行う。実施の時期については、両校で協議するものとする。

2 相互評価・点検についての報告書の作成

相互評価・点検に関する報告書を作成し、公表する。

3 短期大学基準協会への報告書の提出

相互評価・点検に関する報告書が出来上がったら、第三者評価の確認機関である短期大学基準協会に報告する。

4 この協定の有効期間は 1 年とし、平成 25 年 4 月 1 日から始まり、平成 26 年 3 月 31 日をもって終了する。ただし、両校で協議の上、延長することができるものとする。

5 この協定に定めのない事項、若しくはこの協定の解釈に疑義が生じた事項については、両者間でその都度協議し、解決する。

この協定書は 2 通作成し、両者署名捺印の上各 1 通を保管する。

平成 25 年 3 月 12 日

頌栄保育学院
頌栄短期大学
学長 阿部 恩



大阪キリスト教学院
大阪キリスト教短期大学
学長 池田 美華



2. 両短期大学の概要

(1) 大阪キリスト教短期大学概要

1. 名 称 大阪キリスト教短期大学
2. 設置等 設 置 者:学校法人 大阪キリスト教学院
理 事 長:今井 洋
学 長:池田 美芽
開設年月日:昭和 27 年 4 月 1 日
所 在 地:大阪府大阪市阿倍野区丸山通 1 丁目 3-61

3. 沿 革

- | | |
|-------------|--|
| 昭和 27 年 4 月 | 学校法人・大阪基督教学院を創立し、「大阪基督教短期大学(神学科Ⅱ部・保育科)」を開設 |
| 昭和 28 年 4 月 | 「大阪基督教短期大学」に神学科Ⅰ部及び保育科Ⅰ・Ⅱ部を増設、児童福祉法施行令により大阪府より保母養成所指定を得る |
| 昭和 29 年 4 月 | 保育科Ⅰ・Ⅱ部に幼稚園教諭二級普通免許状授与の課程認定を得る |
| 昭和 30 年 4 月 | 神学科に専攻科(神学専攻)を増設 |
| 昭和 31 年 4 月 | 保育科を初等教育科と改称し、Ⅰ・Ⅱ部共に小学校二級普通免許状の課程認定を得る |
| 昭和 41 年 4 月 | 初等教育科の入学定員を変更 |
| 昭和 42 年 4 月 | 初等教育科の入学定員を変更 |
| 昭和 47 年 4 月 | 初等教育科を児童教育学科と改称し、専攻分離する
初等教育学専攻および幼児教育学専攻に分離し、共に小学校・幼稚園二級普通免許状の課程認定を得る
幼児教育学専攻に保母養成所指定 |
| 昭和 49 年 4 月 | 専攻科(神学専攻)の修業年限を変更 |
| 昭和 62 年 3 月 | 児童教育学科Ⅱ部廃止 |
| 昭和 63 年 4 月 | 「大阪基督教学院」を「大阪キリスト教学院」に、「大阪基督教短期大学」を「大阪キリスト教短期大学」に改称 |
| 平成 4 年 4 月 | 児童教育学科の募集停止
幼児教育学科(幼児幼稚園教諭二種普通免許状の課程認定・保母養成校指定)と国際教養学科に改組転換
専攻科(神学専攻)が学士(神学)の課程認定を得る |
| 平成 16 年 4 月 | 専攻科に幼児教育専攻を設置(学士・幼稚園教諭一種普通免許状の課程認定を得る) |
| 平成 19 年 4 月 | 幼児教育学科の入学定員変更 |
| 平成 20 年 4 月 | 神学科の募集停止 |
| 平成 21 年 4 月 | 専攻科幼児教育専攻の募集停止 |
| 平成 22 年 3 月 | 神学科と専攻科幼児教育専攻を廃止申請 |

4. 併設校

グレース幼稚園

幼保連携型認定こども園 聖愛幼稚園
 幼保連携型認定こども園 せいあい保育園

5. 設置学科および入学定員

学 科	入学定員	収容定員
国際教養学科	100	200
幼児教育学科	170	340
合 計	270	540

(2) 頌栄短期大学概要

1. 名 称 頌栄短期大学

2. 設置等 設 置 者:学校法人 頌栄保育学院

理 事 長:酒井 哲雄

学 長:阿部 恩

開設年月日:昭和 25 年 4 月 1 日

所 在 地:兵庫県神戸市東灘区御影山手 1 丁目 18-1

3. 沿 革

明治 22 年 (1889 年) 日本で最初のキリスト教主義の保母養成校として、頌栄保母伝習所 (現頌栄短期大学の前身) 創設 (神戸市中山手通)

明治 22 年 (1889 年) 頌栄幼稚園を開設

明治 41 年 (1908 年) 兵庫県から幼稚園保母無試験検定の指定

昭和 10 年 (1935 年) 頌栄保育専攻学校に改組

昭和 17 年 (1942 年) 財団法人頌栄保育学院を設立

昭和 25 年 (1950 年) 頌栄短期大学の設置認可、保育科設置。入学定員 60 名

昭和 26 年 (1951 年) 財団法人を廃し、学校法人「頌栄保育学院」を設置

昭和 28 年 (1953 年) 厚生大臣から保母資格試験の科目免除校の指定

昭和 33 年 (1958 年) 短期大学保育専攻科 (修業年限 1 年) を設置認可

昭和 39 年 (1964 年) 厚生大臣から保母養成所の認可 (児童福祉施行令規程による)

昭和 52 年 (1977 年) 短期大学、幼稚園ともに新校地 (神戸市東灘区御影山手 1 丁目) に移転を決定

昭和 54 年 (1979 年) 学校法人頌栄保育学院の位置変更の認可短期大学移転

昭和 55 年 (1980 年) 幼稚園移転。短期大学入学定員 60 名から 100 名に

平成元年 (1989 年) 創立 100 周年記念式典を挙行

平成 3 年 (1991 年) 頌栄人間福祉専門学校開設

平成 6 年 (1994 年) 頌栄短期大学専攻科 (保育専攻) を学位授与機構が認定

平成 12 年 (2000 年) 短期大学専攻科 (保育専攻、修業 1 年) を廃し学位授与機構認定の短期大学専攻科 (保育専攻、修業年限 2 年) を設置

平成 18 年 (2006 年) 短期大学の入学定員 150 名に

平成 21 年 (2009 年) 頌栄人間福祉専門学校閉校

4. 併設校

頌栄幼稚園

(社会福祉法人頌栄会)

頌栄保育園

頌栄児童館

西鈴蘭台頌栄保育園

5. 設置学科および入学定員

学 科	入学定員	収容定員
保育科	150	300
専攻科 (保育専攻)	20	40
合 計	170	340

3. 相互評価会議

(1) 大阪キリスト教短期大学での相互評価会議

1. 日 時 平成 25 年 9 月 5 日 (木) 13:30~18:00
2. 場 所 大阪キリスト教短期大学会議室
3. 出席者 [頌栄短期大学]

役職名	氏 名
学長	阿部 恩
学務部長	藤井 薫
宗教主事	塚本 潤一
准教授	谷本 月子
事務局長	藤井 道雄
ALO	吉岡 洋子

[大阪キリスト教短期大学]

役職名	氏 名
学長	池田 美芽
学科長	二見 素雅子
教務担当主事	河崎 雷太
事務局長	本吉 聰
ALO	高市 勢津子

4. 日 程

月日	時刻	内容等	場所
9/5 (木)	13:30	頌栄短期大学一行着	7号館3階会議室 7号館3階会議室 (次 表) 7号館3階会議室 7号館3階会議室
		挨拶・日程確認	
	相互評価		
	事前質問への回答・意見交換等 (1)		
	15:40	学内見学	
16:30	相互評価		
	事前質問への回答・意見交換等 (2)		
18:00	今後の日程の確認と調整		

学校見学の場所および順路

校舎名・フロアー	視察場所・順路
7号館3階	会議室 (スタート)
8号館2階	情報教育室→保健室→学生生活支援室
8号館3階	831 教室→832 教室
8号館4階	ビデオシアター
8号館1階	学生ロッカー室→ピアノ教室・練習室
6号館2階	栄養実習室→体育教室→学生食堂

本館 2 階	キャリアセンター→CALC 教室→国際教育センター→021 教室
本館 1 階	法人事務局・総務部・学生担当・教務担当
本館地下 1 階	学生ロビー→多目的ホール
5 号館 1 階	南大教室→北大教室
5 号館 2 階	講堂
チャペル	チャペル→キリスト教センター
認定子ども園	せいあい保育園→聖愛幼稚園
7 号館 2 階	図書館閲覧室
7 号館中 2 階	図書館中 2 階
7 号館 1 階	図書館 1 階
7 号館 3 階	会議室（終了）

5. 会議概要

(1) 挨拶・日程確認

挨拶・自己紹介・本日の日程確認

(2) 事前質問への回答

大阪キリスト教短期大学『2012（平成 24）年度 自己点検・評価報告書』の内容に対する頌栄短期大学からの事前質問事項（1～53）について、6. のとおり回答した。

(3) 今後の日程等確認・調整

・大阪キリスト教短期大学の頌栄短期大学への訪問日程について

6. 頌栄短期大学から大阪キリスト教短期大学への質問事項・回答

質問 番号	報告書 該当項目	報告 書 頁	質問事項および回答
1	基礎資料 課題等に対する 向上・充実の 状況について	7	<p>人事は人事教授会が選考委員会として機能し、決定まで行うのですか。</p> <p>【回答】人事教授会が選考を行い、その結果を理事会に報告する。最終的な決定は理事会が行う。</p>
2	基礎資料 入学定員充足 率について	8	<p>現在の入学定員充足率の高さ（幼児教育学科）の理由をどう分析していますか。</p> <p>【回答】以下の4点その理由であると考えている。 (1) 大阪において保育の伝統校として認知されている。(2) 就職先からの評価が高いため、高校においても評価が高い。(3) 保育技術、実習等の授業が充実しており、卒業時の学生の質が比較的高い。(4) 在学生の雰囲気明るく真面目ということを保護者が好む。</p> <p>【質問】下宿の斡旋はしていますか？</p> <p>【回答】希望者がいないので下宿の斡旋はしていないが、本人の許可を得て在校生が一人暮らしをしている物件を複数紹介している。</p>
3	基礎資料 入学定員充足 率について	8	<p>定員充足率 118%ですが、学習環境に不適切な面は生じていませんか。</p> <p>【回答】専任教員の授業においては、特に不適切な面は生じていない。 非常勤講師担当の「子どもの食と栄養」においては実習教室の規模に対して人数が多すぎるため、危険な場面が生じることがある。来年度より、1クラス 35 人程度になる予定であるので改善の見込みである。</p>
4	基礎資料 退学者数につ いて	9	<p>退学者の理由と時期について、お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】※幼児教育学科のみ 平成 24 年度 5 月 1 名、7 月 1 名、9 月 1 名、3 月 2 名、 平成 23 年度 8 月 1 名、10 月 1 名、 平成 22 年度 8 月 4 名、3 月 2 名、 平成 21 年度 8 月 1 名、 平成 20 年度 3 月 1 名、</p>

			<p>理由は、ほとんどが進路変更である。</p> <p>【質問】入学後の進路変更の原因として、高校の強い推薦の結果ということも考えられますか。</p> <p>【回答】高校では、本人の希望を最優先しているので、強い推薦はできないと聞いている。</p>
5	基礎資料 進学者数について	10	<p>進学者の行先についてお聞かせください。また、専攻科の廃止による影響はありますか。</p> <p>【回答】幼児教育学科生の指定校推薦による進学者に関しては、小学校教諭免許を目指すものや、音楽系の芸術大学に編入したものがいる。幼児教育に関する編入はなく専攻科廃止の影響はない。</p>
6	基礎資料 教員組織の概要について	11	<p>専任教員のうち講師が多いが、世代交代等によるものですか。</p> <p>【回答】世代交代の時期でもあるが、約10年前より特任教員制度を導入し、新任の場合は特任講師（助教）としての採用になった。何年か助教として働いたのち、任用・昇格会議で推薦され、講師となる。現在はその段階で講師の方が多くなっている。</p>
7	基礎資料 公的資金の適正管理の状況について	15	<p>公的資金の取り扱い規程は特にないとのことですが、今後の整備予定についてお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】今後早いうちに整備したい。</p>
8	基礎資料 実技系科目について	16	<p>実技系科目の補習の実情についてお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】体育実技・体育演習の補習については、授業内の試験において各種目の達成目標に達していない学生に対し、達成できることを目標にチャレンジさせ、それぞれに応じた個々への細かな1対1の指導を行っている。また、学生の空き時間及び学生のその時期のコンディション、教員の時間割、体育館の使用状況を照合し無理のない時間に補講を設定している。</p> <p>器楽（ピアノ）では、半期ごとに最低進度が決まっていて、達成できないと予想される学生は、昼休みなどに補講している。それでも決められた最低目標に届かない学生は「曲数足りず不可」としてスペシャルクラスを設け、週に二回授業を行っている。</p> <p>声楽では、必要に応じて授業の後に教えたり、空き時間に研究室にて教えたりしているが、補講や補習という形はとっていない。</p>

9	基礎資料 進度の早い学生への対応について	16	<p>進度の早い学生への対応で「資格や海外での研修等の機会」とは具体的にどのようなものですか。</p> <p>【回答】エクステンション講座において資格を取得、漢検・英検受験の奨励および学内受験、海外実習・幼児教育海外研修へ参加、音楽コンテストに参加等である。</p> <p>【質問】留年者(若しくは卒業延期者)はいますか。また、その理由をお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】※幼児教育学科のみ 留年者・卒業延期者は、毎年合わせて1、2名で、単位不足や休学のためである。</p>
10	基準 I-A 建学の精神について	26	<p>平成 25 年度に予定されている、学外（卒業生、就職際等）へのアンケートの方法や項目の概要についてお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】学生へのアンケートは、対象を卒業後 2 年目、5 年目とした。就職先へのアンケートは前年度卒業生全員を対象に、同一園であっても個別に評価を依頼した。 アンケートは別紙参照（アンケート資料を添付）</p>
11	基準 I-A-1 建学の精神が確立しているか、について	27	<p>教授会での小礼拝について、感想と評価をお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】伝統的に守られているが、特に評価を取ったり感想提出を求めたことはない。</p>
12	基準 I-A-1 建学の精神が確立しているか、について	27	<p>礼拝について、学生が有益さと親しみやすさを感じられる具体的な工夫とは、どのようなものですか。</p> <p>【回答】前センター長の時から、礼拝説教は 15 分程度とし、学生が集中しやすいようにと変わってきた。平成 25 年 4 月より神学専攻科の教員 1 名がキリスト教センター主事に着任し、礼拝の充実のため検討中である。説教のテーマや讃美歌の用い方など、学生の意識に入りやすいものを心がける。</p>
13	基準 I-B-1 教育の効果について	28	<p>学科協議会、教務委員会における教育課程の検討内容は、どのようにフィードバックされますか。</p> <p>【回答】教育課程の検討課題については、教務委員会・または教務担当部署より学科協議会へ議題提案が行われる。学科協議会において検討後、教授会に教育課程の変更案が出され、教授会の承認を得て教務担当部署へ具体的変更の指示が出される。なお、予算に関係するような教育課程の変更は、理事会の決議によって変更が決定される。学科協議会は、毎月一回、時間をかけて行っている。</p>

14	基準 I-B-1 教育目的・目標が確立しているか、について	29	教育目的を平成 23 年度より刷新されているが、どこでどのように議論・決議されたのですか。 【回答】 学科協議会で何度も議論を重ね決議した。
15	基準 I-B-2 学習成果を定めているか、について	31	人間性という達成目標の評価についてどのように検討していますか。 【回答】 模索中である。
16	基準 I-B-3 教育の質を保証しているか、について	32	教職員による授業の相互参観についての詳細（対象科目、参加人数、結果の閲覧方法）についてお聞かせ下さい。また、職員の参観もあるのであれば評価結果提示に難しさはありませんか。 【回答】 11 月末の 2 週間を「相互参観期間」とし、その間、公開可能な授業を各自最低 1 科目出し、公開授業時間割を作成する。それをもとに各自が最低 1 つの授業を聴講し、評価アンケートを提出する。アンケートは冊子にして閲覧可能にする。各自は自分の授業に対する評価を参考にし、他者の授業を参考にすることができる。評価はお互いの授業をよりよくするためのものとの信頼感があるので、この相互参観は 3 年間継続して実施され、定着してきている。教員同士が主であり、現在職員の参観はない。
17	基準 I-B-3 教育の質を保証しているか、について	32	授業アンケート評価の集計結果は公表されていますか。 【回答】 現在のところ公開できていない。将来的に公開する必要は感じている。 【質問】 定期試験の得点分布に基準はありますか（例えば S-10%、A-20%、B-50%、C-20%を目安と定めるなど）。 【回答】 得点分布の基準はない。各先生方の裁量による。平成 25 年度より、シラバスに単位認定の方法と基準を示し、定量化できるようにしている。
18	基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力しているか、について	34	自己点検・評価から翌年の修正へつながらなかった場合の主な原因は何ですか。 【回答】 毎年の自己点検・評価報告書を作成後、学校全体として、それを反省し、次年度への課題、行動改革をまとめるという過程が十分でなかったためと分析する。平成 25 年度はそれをスケジュール化して業務の改善に向かうサイクルを作っていきたい。

19	基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示しているか、について	36	フィールド・スタディは大阪キリスト教短期大学の独自の科目のようですが、その内容と課題について、お聞かせ下さい。また、単位化はしていないということですか。 【回答】現在は1～3単位である。内容と課題は要覧に掲載している。来年度からは、単位修得の条件を検討し、廃止の方向である。
20	基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示しているか、について	36	「学習成果は学生の質とともに低下の傾向にある」とありますが、その判断理由をお聞かせ下さい。 【回答】入学学生の質の低下は合格者の最低得点が徐々に低下していることから推察される。また、授業内容をより噛み砕き丁寧に説明しなくては理解が得られなくなっていることから、同一時間内に以前と同じ学習成果を得ることが年々難しくなっている。
21	基準ⅡA-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示しているか、について	39	ゼミ担当教員の任務およびゼミ活動の内容について、お聞かせ下さい。 【回答】研究内容に関しては、各教員の専門をベースに保育に関する内容としており多様である。ゼミ単位で行う行事としては、ゼミ対抗バレーボール大会、夏季合宿、大学祭の模擬店などがある。これらに対して責任者という位置付である。担当のゼミ学生が、欠席3回など教学上の問題が起きたときは、教務担当よりゼミ担当教員に連絡がある。ゼミ担当教員が学生に連絡をとりサポートを行う。学生のメンタル・ケアも担当しているが、専門的なケアが必要な場合は学生生活支援室と連携する。就職については担当していない。
22	基準ⅡA-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示しているか、について	39	到達目標に達しない学生への補講・補習システムについて、個別の補講と再試験の関連はありますか。教師の到達目標に達しない場合は「不可」とならないのですか。 【回答】教師の到達目標に達しない場合は「不可」となる。到達目標に達するように、補講を行う（主に実技科目）。理論的な科目においては再試験となる。そこでも到達しない場合は不可となり、次年度に再履修する。それでも到達しない場合は卒業判定となる。条件が満たせず卒業判定において「特別再試」ができない場合は、卒業できない、または卒業できるが免許や資格を取得できない場合がある。その場合は、その科目だけ科目等履修で再履修して免許等を取得し就職する。「特別再試」の条件は、卒業必修科目で2科目以内というものである。

23	基準ⅡA-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示しているか、について	41	「実習までに必要な科目」は何か、学生にはどの段階で示しているのでしょうか。 【回答】時間割と要覧によって、履修登録時に示している。
24	基準ⅡA-3 入学者受け入れの方針を明確に示しているか、について	42	幼児教育学科に必要な「基礎能力」は何であると考えておられますか。 【回答】アドミッションポリシーにあるように、保育者を目指す意思を明確に持っていること、目標に向かって努力できること、周りの人に積極的に関わる明るさとコミュニケーション能力を持っていること、「国語」「英語」等の基礎学力を持っていること、保育技術を習熟するための根気強さをもっていること、健康管理等ができることである。 そこで、保育者を目指す意思や努力できるかどうか、明るさやコミュニケーション能力を面接試験において見極めるよう努力している。基礎学力・保育技術に関しては実技試験を通して見極めている。健康管理については欠席回数を採点に反映させている。
25	基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定(アセスメント)は明確であるか、について	43	シラバスの内容チェック担当部署はどこですか。教員への修正依頼の難しさはありませんか。 【回答】現在は、目についた文章的なミス以外のチェックは行っていない。 科目内容に関するチェックは難しいと思われる。
26	基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定(アセスメント)は明確であるか、について	44	人間力をつける科目とは具体的に何か、お聞かせ下さい。 【回答】ほとんどは国際教養学科の科目(女性学、人間学概論等)である。幼児教育学科においても「聖書と現代人」が該当し、本質的な目標が人間形成に係わる科目を指す。
27	基準Ⅱ-B 学生支援について	45	メンタル・ケアの必要な学生への具体的なシステム・対応について、お聞かせ下さい。 【回答】学科協議会、教職員、関連部署と協力、連携しながら、学生・保護者への直接支援、教職員・保護者・友人等へのコンサルテーションを行っている。 まずは、ケアの必要な学生がどのように見出されるか、①学科協議会における、授業、ゼミ、その他の活動において、気にな

			<p>る学生の情報交換から、②とくに実習前後、実習中の学生の変化の中から、③日常の中で、ゼミ担当教員から支援室担当者へ報告、相談、④保護者からの情報、⑤保健室から、⑥支援室担当教員が1年生全員の授業を受け持っているため授業の様子から、⑦本人の来室、⑧学生（友人）からの情報、である。</p> <p>次に、ケアが必要だと認められた場合には、①来室するよう本人に連絡、または保護者に連絡し来室していただく。必要な場合は、病院を紹介する。病院に通院したのちも、本人の様子を把握、学校生活を送るための援助として、来室を促し、関わりをもつ。同時に必要な場合は保護者との連絡を続ける。②ゼミ担当教員、関連部署、学科協議会に理解を求めたり、コンサルテーション（状況を説明し理解を求め、関わりのアドバイスなど）を行う。</p>
28	基準Ⅱ-B 学生支援について	45	<p>食堂について、改善要望内容はどのようなものですか。また、食堂運営は学内のどの部門で、食堂改善といった課題を話し合い決議する場はどこですか。</p> <p>【回答】要望は、調理に時間がかかる・メニューが少ない・待ち時間が長い・売り切れがある・食品に髪の毛が入っていたなど。</p> <p>運営は、委託業者であり、改善課題を解決のために、「学内食堂委員会」が9名で組織されている。学生担当による「学生生活調査」などに記述された食堂に関する苦情、直接会った苦情などを委員会の長（事務局長）に伝え、注意喚起してもらい、または学生担当主任が直接伝え改善を求める。</p>
29	基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用しているか、について	46	<p>実習については何名で協議するのですか。幼児教育学科協議会の協議内容は教授会等の他会議と重複しませんか。</p> <p>【回答】実習についてはまず実習担当者4名が核となり協議されたものが、実習委員会12名（国際教養学科長・教務担当・キャリアセンター・事務局長等学科協議会とは異なるメンバーが含まれる）によって検討され案として学科協議会に提案される。さらに、学科協議会15名で協議し、学科の案として教授会に提案され、教授会の承認を経て、最終的に理事会の承認を経て実施される。</p>
30	基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて	47	<p>履修カルテの活用方法について、お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】履修カルテは、1年次最後に実習関係者の授業において学生が一斉に自己評価をする。教務担当に提出され各ゼミ担</p>

	教育資源を有効に活用しているか、について		<p>当者に配布される。ゼミ担当者が学生の1年間の評価を行い、担当するゼミ生の自己評価を知ることができる。</p> <p>2年生後期に初めに、「保育・教職実践演習」授業時に学生は、ゼミ担当者の評価を読み、最終の目標を意識する。</p> <p>2年次最後に、学生が自分の2年間の成長を振り返ることができるように、評価を書き込む。2年間の成長をゼミ担当者が書き込む。卒業時には、2年間の成長を自覚して自信を持つことができる。</p>
31	基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用しているか、について	47	<p>教授会の会議資料を電子化して共有していますが、ペーパーレスでの進行の利点や難しさについて、お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】教授会は平成22年度より会議資料を電子化している。利点は大量の紙の使用を抑制できることと、事前に教授会での議事に使われる資料をすべて把握できるため、議事進行がスムーズであることなどである。会議には全員がパソコンを持ち込んでいるので、もし配布漏れの資料があってもその場ですぐ無線LANを通じて配布できるなどのメリットがある。当初は学内LANの使い方や資料のPDF化等に戸惑いがあったが、現在はスムーズになっている。難点は、やはり紙ベースでないと確認しにくいものもあり、各自で印刷するなどの手間がかかること、資料はすべて学内LANの中のフォルダに保存され教職員はパスワードでアクセスできるが、古い資料ファイルを調べるのに手間取ることである。</p>
32	基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用しているか、について	47	<p>ゼミで成績を手渡しするメリットと留意点について、お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】学生個人の現在の学習状況を把握する責任者がゼミ担当者となる。特に就学が遅れやミスがある学生の発見と今後の指導ができると期待している。留意点は、確実に渡すことである。</p>
33	基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っているか、について	49	<p>新入生研修会の内容、そこでの2年生のプレゼンの方法について、お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】大阪市内のホテルにおいて一日実施。入学時のオリエンテーションの一環として、学びの目標と備えと学生生活に対する理解を深めること、教職員や学友と共に過ごして親睦を図ることを目的としている。内容は、学長による建学の精神、学科長による学科の目的、選抜された2年生アドバイザーによる、キャンパスライフやボランティア、留学について、パワーポイ</p>

			<p>ントを使用しての紹介。さらに、パワーポイントやペープサート・寸劇などを活用しながら、学科での学びや幼稚園実習・施設実習、学生生活の説明とアドバイス。ゼミ毎で自己紹介等の親睦会と、悩みや疑問についての相談、アドバイス。</p>
34	<p>基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学習支援を組 織的に行って いるか、につ いて</p>	49	<p>音楽等の基礎技能の不足学生への補講の実際について、お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】入学前の準備説明会の折に、受験で音楽技術を受けなかった学生全員に一度ピアノを弾いてもらい、必要な人には月一回程度実施しているピアノレッスンに来るよう勧めている。</p>
35	<p>基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学習支援を組 織的に行って いるか、につ いて</p>	49	<p>実習について</p> <p>①能力不足学生への練習実習について、該当させる基準と内容 ②実習担当教員数、三種類の実習における分担や連携 ③実習先配属の方法 ④巡回指導の担当教員数、1人あたりの巡回園数 ⑤保育実習Ⅱと保育実習Ⅲのそれぞれ選択者の数 ⑥実習停止の条件 ⑦評価方法</p> <p>をお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】①・教育実習(1)の成績を受け、成績不良者(一つでも「やや劣る」「劣る」の成績がついている場合)、本人と面談をする。事情を聞きその後教育実習指導担当教員で協議したのち、練習実習が必要と判断された場合、附属幼稚園で練習実習を行う。個人の課題を明確にしてそれぞれの課題に応じた「練習実習カルテ」を教員が作成し付属園教諭に個別指導していただく。教育実習(2)は、全員と面談する。成績不良者や自己申告(不安や希望)により練習実習者を決める。その際も教育実習担当教員で協議し真に練習実習が必要な者に対して行う。内容は上記同様、個々のできなかつたところを課題として「練習実習カルテ」に応じた個別指導を受ける。</p> <p>・保育実習(施設)では、施設の実習担当者と協議の上、不合格の判断を実習担当教員が行う。再実習の実施のみで練習実習は行っていない。ただし、「やや劣る」という評価が一つでもついていた場合は、次の保育実習(保育所)との総合評価によって、不合格になる可能性もあることを伝え、反省と課題を明確にして改善するよう指導している。</p> <p>・保育実習(保育所)では、「やや劣る」「劣る」の評価の合計数が1/3以上ある場合に学内保育所にて練習実習を行う。ただし、個人面談を行い、課題の内容が向上できると判断できる場</p>

		<p>合であり、向上できないと判断された場合は、不合格とし、再実習となる。また、1/3以上でなくても、合計3つ以上ある学生と、所見に指摘されている事項に問題があると思われる学生は、個人面談で練習実習の必要性があると判断した場合、練習実習を行い、それぞれの課題に臨む。</p> <p>②教育実習（幼稚園）担当教員2名と非常勤講師2名、保育実習（施設）担当教員1名と実習指導員4名、保育実習（保育所）担当教員1名と実習指導員4名、他に、実習指導室職員（非常勤）2名。連携は、学内外で常に行っている。実習担当教員は、学校から携帯電話を支給されている。</p> <p>③学生の通学路を調査し、定期券の使用範囲（経費）と所要時間を考慮し配属する。また、なるべく同じクラスにならないよう、同じ学生と複数回、組むことのないよう配慮している。</p> <p>④専任教員のほぼ全員（22人）。1人あたり約3～4園。</p> <p>⑤保育実習Ⅲは毎年5～6人、それ以外の全員が保育実習Ⅱを選択。</p> <p>⑥実習に必要な提出書類が未提出、オリエンテーションを遅刻・欠席、感染症、心身の不調で回復に時間がかかると判断された、やる気がみられない、学生に継続の意志がない、指導を聞かない、指導が聞けない、指導に対して改善が見込めない場合。最終判断は、実習先と相談の上で停止とする。</p> <p>⑦実習先による評価のバラツキがあるため、合格か不合格のみの評価である。</p>
36	<p>基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学習支援を組 織的に行って いるか、につい て</p>	<p>49 学内音楽コンテストの概要をお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】平成23年度から実施している。昨年度は以下の通り。対象は、幼児教育学科2年生。</p> <p>1、予選：平成24年8月31日（金）10時00分～15：30（於：本学シアター）参加者数：ピアノ部門計13名、声楽部門計7名、アトラクション部門：16組、合計延べ人数：約70名</p> <p>2、本選：平成24年10月9日（火）10時40分～12時10分（於：本学講堂）参加者数：ピアノ部門計5名、声楽部門計5名、アトラクション部門：8組、合計延べ人数：37名（プログラムは別紙参照）</p>
37	<p>基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学習支援を組 織的に行って いるか、につい て</p>	<p>50 基礎学力不足学生の選別方法についてお聞かせ下さい。基礎学力のみならず、保育者としての適性を欠くと判断された場合は入学を許可するのでしょうか。</p> <p>【回答】基礎学力不足を国語力とするならば、学科目の試験によって選別される。保育者としての適性を欠く学生は、面接試験で選別される。</p>

38	<p>基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学習支援を組 織的に行って いるか、につ いて</p>	50	<p>幼児教育の海外研修ツアーについて、引率教員は交替制ですか。</p> <p>【回答】交替制である。</p>
39	<p>基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学生の生活支 援を組織的に 行っているか、 について</p>	52	<p>クラブ加入率が非常に高いので、工夫していることをお聞かせ下さい。また、外部コーチ依頼もしていますか。活動時間帯をどう保障していますか。</p> <p>【回答】学生の自主性を尊重し、新しい同好会の立ち上げも認めている。個々の空き時間を自由に使えるように、学内の施設（ピアノ、教室、体育館など）を提供している。外部コーチはなし。</p>
40	<p>基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学生の生活支 援を組織的に 行っているか、 について</p>	53	<p>貴学独自の奨学金について、貸与額と利用人数をお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】貸与額は、授業料の半期分全額。利用人数は0人。</p>
41	<p>基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学生の生活支 援を組織的に 行っているか、 について</p>	53	<p>メンタルケアの対応として、保健室と学生生活支援室の連携は円滑ですか。非常勤カウンセラーは現在、不在ですか。保健室に職員が常駐していますが、利用が少ない時期や時間帯についてお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】保健室と学生生活支援室の連携は、日常的に行っている。現在、非常勤カウンセラーは不在である。保健室には養護教諭が常駐している。怪我や体調不良で利用する学生や、学生支援としての居場所の提供（室利用）、健康相談等の利用に関しては、授業のない夏期や春期休暇時は少ない。朝の時間帯は、登校時の怪我、登校途中での体調不良など、昼休み・空き時間は、たいしたことはないが、みてほしいこと、聞いてほしいこと、バンドエイドがほしいなど、授業時は急な腹痛、体調不良、空き時間を利用しての休養など。</p>

42	<p>基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学生の生活支 援を組織的に 行っているか、 について</p>	54	<p>学生への質問紙調査とはどのような内容、時期に行うものですか。</p> <p>【回答】入試が行うアンケートは、2回。 ①入学時のオリエンテーション（4月） 本学を最初に知った時期ときっかけ、受験を決めた時期と理由、進路相談を誰にしたか、オープンキャンパスへの参加の有無と感想、他に受験した学校、他に受験を考えた学校、短大へ進学を決めた理由、本学の優れている所と劣っている所、インターネット環境、Webサイトの利用状況、本学を知るために行った方法、知りたかった内容、入試について、本学のイメージについて、取得資格、高校時の活動、取得を目指す検定や資格。 ②卒業前（2月） 短大に進学を決めて良かったか、本学が他と比べて優れている所と劣っている所、入学して変化（成長）したところ、入学希望者へのアドバイス、本学について何でも、本学の満足度と理由。 他に、学生担当が卒業前（2月）に、学生生活アンケートを実施。</p>
43	<p>基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学生の生活支 援を組織的に 行っているか、 について</p>	54	<p>難聴者以外の障がい学生受け入れはありますか。また、障がい学生受け入れについて、対応等は学内で共通認識が形成されていますか。</p> <p>【回答】軽微な障がい学生を受け入れたことはある。現在の難聴障がい学生に関してはその対応について毎月学科協議会で確認を行っている。</p>
44	<p>基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程 の学習成果の 獲得に向けて 学生の生活支 援を組織的に 行っているか、 について</p>	55	<p>ボランティアの内容、評価、単位化について、また大学の関与はどの程度か（活動先や日程の調整、活動前後の対応等）お聞かせ下さい。</p> <p>【回答】ボランティアの内容は、①保育補助（保育所、幼稚園）、②介護補助（老人ホーム）、③子ども指導（託児、キャンプ、乳児院、学童保育）、④福祉関係（障がい者施設、病院関係）、⑤海外活動、⑥その他、で多いのは、①③。③夏のキャンプ、⑥福井県のふくい農林水産支援センターがやっているふるさとワークステイも人気がある。牛の世話や農作業、こどもの自然観察会のお手伝いなど、内容は多種多様。評価、単位化については、30時間以上のボランティアをしたのち、レポート（1000字程度）を提出すればフィールドスタディ（ボランティア論）の1単位として認めている。 大学の関与としては、活動先を掲示板やチラシをおいてアピー</p>

			ルしている。地域（阿倍野区）からも要請が来る（あべの子育て支援連絡会に所属）。その他、学生が自分で見つけてきたボランティア先も、特に支障がなければ承認している。事前に、ボランティア登録用紙の提出を義務付けている。回覧によって、地域協働センター長、学科長、教務担当、事務局長、学長の承認を受ける。
45	基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っているか、について	58	就職ガイダンスは単位化されていますか。また、その予定はありますか。 【回答】現在のところ、出席率はほぼ100%であり、単位化の必要性はないと考えられる。
46	基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示しているか、について	60	入試準備説明会の具体的内容、不参加者への対応について、お聞かせ下さい。 【回答】年間3回（去年は4回）実施するので、やむを得ない欠席者は、次回開催分に順送りして参加してもらっている（少数だが遠隔地の合格者も参加している）。最終回に参加できない合格者には、入試担当が個別に連絡し、対応している。入学式まで一度も来ないという入学予定者はいまのところ出ていない。
47	基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示しているか、について	60	英語・国語・音楽・体育と複数の選択がありますが、採点調整はありますか。 【回答】英語と国語では、不公平とならないよう、採点調整を行っている。 音楽と体育については、行っていない。 【質問】就職後の早期退職者はどのくらいいますか。 【回答】（3カ月以内に退職した者、幼児教育学科のみ） 平成24年度4月に2名、23年度4月に1名・6月に2名、22年度4月に1名・5月に2名、21年度5月に2名、20年度4月に2名、6月に1名。
48	基準Ⅲ-A 人的資源について	62	事務職員のSD活動はどのような内容での促進を考えていますか。 【回答】高等教育機関事務職員として資質向上のため、外部機関（文部科学省・日本私立短期大学協会・大阪私立短期大学協会・日本私立学校振興・共済事業団・日本学生支援機構など）が開催する研修会参加を勧めている。平成24年度には全事務職員参加の研修報告会を実施し、学校法人を取り巻く厳しさの情報を共通理解するようにした。メンタル・ヘルスケア研修

			講演会を FD・SD 研修として実施した。また大阪私立短期大学協会の各部署の幹事として外部団体の活動に積極的参加を認め、複数の職員が活動中で適宜情報の報告がある。月一回の事務職員全体朝礼時に本学院の動き、文部科学省などの情報を伝え共通理解に努めている。課題は、総務部（部長）、教学部入試担当（課長）以外の部署長に教育職員を配置するが、事務職員が全部署長を担えないか悩む。改善計画として、事務職員は自法人の情報を HP で把握し、定期異動を行うことで緊張と緩和を生み出し業務活性化につなげる。現在は学内での研修の予定はなく外部研修参加での分かち合いとする。
49	基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備しているか、について	63	実習指導員の職位、職務はどのようなものですか。 【回答】実習指導員は、非常勤講師（教育支援職）であり、「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」の事前・事後指導および、実習記録等の添削を行う、複数指導の一員である。教育実習の方の実習指導員（非常勤講師）は、一人で授業を受け持つ資格を有している。
50	基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備しているか、について	63	学位取得準備中の教員に対して、何か配慮がありますか。 【回答】教員は授業の他、各部署での働き、学科での教育活動、実習中の訪問指導等を分担している。学位取得準備中の教員に対し格別の配慮をするという規程およびシステムはないが、教職員同士で配慮し合い、過重な負担になりすぎないような配慮を個別行的に行っている。
51	基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われているか、について	66	事務職員役職位変更のシステムの詳細をお聞かせ下さい。 【回答】「専任事務職員役職位任免内規」に専任事務職員の役職位任免に関する事項を定め、選考手順に従う。役職を得るには新人の場合、専任事務職員採用後 10 年、途中採用者は 2 年経過すれば候補者となり、すべての部署長に専任事務職員の候補名簿を示し候補者の推薦を求める。被推薦者は共通の課題を期間内に提出し面接（常務理事）を受ける。担当者は面接結果を理事長に報告、常務理事会審議後、理事長が決定。課題は、長年の勤務者でありながら、候補者として推薦されない者がいたこと。改善計画としては、役職者の責務を感じながら役職上位を目指せるよう教示も必要。事務職員の評価規程を導入することで正当な評価を得られるようにしたい。

52	基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われているか、について	66	<p>職員の代替勤務ができないことへの危機管理はなされていますか。</p> <p>【回答】総務部は複数事務職員が在職し複数で実務を行えることから担当者の突然の長期休暇に対応する。一方、事務職員一人の部署では、他部署事務職員が業務を兼務したり、教員がカバーするなどで緊急に備えるが、より専門的な業務内容は休務の担当者に確認を行っている。課題は、代替事務職員がいない一人事務職員勤務の部署があり、危機感を持つ。改善計画としては、各部署の統合など部署数を少なくするなど事務職員が単独勤務する部署をなくすことで危機を脱したい。事務職員チーム制など組織変更による複数者での対応の可能性をさぐる。</p>
53	基準Ⅲ-B 物的資源について	67	<p>災害時の対応マニュアルは整備されていますか。また、学外実習中の災害に関しての取り決めはありますか。</p> <p>【回答】危機管理規程、防火管理規程をはじめ災害に係る諸規程を整備している。毎年一回、学生、教職員全員で火災避難訓練及び初期消火活動訓練を実施している。阿倍野消防署員の指導により学生は水消火器を手に消化訓練を体験する。課題は、訓練のため避難時間が多くなりがちとの講評を得て残念。改善計画として、地震対応訓練などによる避難訓練も今後は必要。</p>

(2) その他、訪問当日の質問事項と回答

頌栄短期大学から大阪キリスト教短期大学へ

	内 容
1	<p>【要覧】開講時期(前期か後期か)が記されていないが、履修指導時に知らせるのですか。</p> <p>【回答】学年暦は年度初めに配布される。前期末、後期末にも書面の配布とともに時期の連絡が行われる。</p>
2	<p>【シラバス】「保育内容 環境」は隔年開講のようだが、1年次と2年次受講で差はありませんか。</p> <p>【回答】「保育内容 環境」は平成23年度までは1年生後期に行っていたが、平成25年度より2年生後期開講とした。理由は1年生後期に授業が集中しており、学生の負担が大き過ぎたためである。内容は2年生後期であるのでより具体的・実践的内容へと変化させた。</p>

3	<p>【入試要項】入試時期が10月と早いですが問題はありませんか。</p> <p>【回答】指定校制推薦入試と公募1次を10月に実施しているが、大阪の競合短大が、軒並み10月に実施することが慣習として定着している。</p>
4	<p>【入試要項】入試実技系での「適性検査」について、導入時期と検査の有効性についてお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】「適性検査」の導入時期は不明。少なくとも20年以上前には導入されていた。現在、「適性検査」は「基礎判定」と名称変更している。理由は適性検査不合格の出た高校の進路担当部長からクレームがあり、適性検査という言葉は、受験生には軽く受け止められやすいが、いざ、不合格となると非常に重い意味を持つてしまうからである。</p> <p>有効性についてはあると考えられる。ピアノや歌に馴染みのない生徒にとっては、触れるきっかけになる。試験科目ではないのであくまでも合否判定の参考材料であると考えているが、過去、この判定によって不合格となった例もある。当検査に当たって全く準備をしておらず、ピアノを弾こうとしなかったような場合も含んでいる。ある程度の音楽的基礎力があるかどうかを見極めることができ、それが合否の判定材料と考えている。体育の場合、選抜の意味合いだけでなく、むしろ将来、教員（保育者）になるために大切な自己の『健康管理』の意識付けをするために実施している。</p>
5	<p>【入試要項】学生の性別は、今後も女子のみを対象とする予定ですか。</p> <p>【回答】共学化については、現在議論すらされていない。男子の希望者はまだ少数であり、接触した男子生徒を見る限り、本学の教育体制、出口〔就職〕には合わないように感じる。</p>
6	<p>【入試要項】第二志望（学内）制度がありますが、実際に別学科へ入学する人数をお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】国際教養学科の中に国際教育コースがあった時は、このコース入学者の約半数が第二志望合格者であった時期がある。現在、同コースは募集停止となった。</p>
7	<p>【入試要項】平成23年度入学者減の後、どのような工夫や取り組みがありましたか。</p> <p>【回答】平成23年度は、受験者の母集団となるオープンキャンパス参加者数も少なかった。また、競合短大が新たなしくみ（指定校増加やAO入試）で攻勢をかけたこともあった。一方、本学は指定校や公募の時期設定が遅かったことも、早く合格を決めたい受験生に他短大を選択させる誘因にもなったと考え</p>

	<p>た。従って、24年度に向けて①試験日程の変更、②指定校推薦条件の緩和と依頼人数の増加を実施。結果、指定校制推薦入試受験者が増加した。さらに、25年度に向けては③オープンキャンパス参加者を増やすために、冊子“きりたんライフ”を2回発行し、オープンキャンパス開催日に合わせて、資料請求者にDM郵送した。</p>															
8	<p>【大学案内】 幼児音楽系、国際教育系を設定していますが、就職その他で独自性はみられますか。</p> <p>【回答】 平成25年度1年生より設定されたもので、就職における独自性などはまだ不明である。</p>															
9	<p>【大学案内】 専攻科は廃止されていますが、保育関連の資格制度改革を前に、上位資格・免許を意識することはありますか。</p> <p>【回答】 意識はしており情報収集はしているが、具体的には検討していない。</p>															
10	<p>【大学案内】 エクステンションの取り組みがユニークですが、実際の申し込み割合をお聞かせ下さい。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>【回答】</td> <td style="text-align: center;">平成25年度</td> <td style="text-align: center;">平成24年度</td> </tr> <tr> <td>救急救命講座</td> <td style="text-align: center;">96名</td> <td style="text-align: center;">118名</td> </tr> <tr> <td>応急手当講座</td> <td style="text-align: center;">25名</td> <td style="text-align: center;">69名</td> </tr> <tr> <td>腹話術講座</td> <td style="text-align: center;">37名</td> <td style="text-align: center;">23名</td> </tr> <tr> <td>MOS講座</td> <td style="text-align: center;">65名</td> <td style="text-align: center;">12名（最終受験者6名）</td> </tr> </table>	【回答】	平成25年度	平成24年度	救急救命講座	96名	118名	応急手当講座	25名	69名	腹話術講座	37名	23名	MOS講座	65名	12名（最終受験者6名）
【回答】	平成25年度	平成24年度														
救急救命講座	96名	118名														
応急手当講座	25名	69名														
腹話術講座	37名	23名														
MOS講座	65名	12名（最終受験者6名）														
11	<p>【入学前課題】 ピアノのレッスンの概要（人数や回数）、教員の負担についてお聞かせ下さい。</p> <p>【回答】 平成24年度は、3回実施した。各回の教員数、参加者数、時間は以下の通り。①1月19日（土）13：00～15：50、教員5名、受講生49名（受講生1人当たりの時間：約15分）、②2月13日（水）13：00～15：50、教員5名、受講生50名（受講生1人当たりの時間：約15分）、③3月19日（土）13：00～15：50、教員5名、受講生55名（受講生1人当たりの時間：約13分）、原則として、音楽担当の専任教員と入試担当職員が当該時間には学生誘導や指導を担当する。なお、ピアノレッスンは、非常勤講師にも応援をお願いしているが、それについては別途謝金を支払っている。</p>															

(2) 頌栄短期大学での相互評価会議

1. 日 時 平成 25 年 9 月 12 日 (木) 13:30~18:00
2. 場 所 頌栄短期大学会議室
3. 出席者 [大阪キリスト教短期大学]

役職名	氏 名
学長	池田 美芽
学科長	二見 素雅子
教務担当主事	河崎 雷太
事務局長	本吉 聰
ALO	高市 勢津子

[頌栄短期大学]

役職名	氏 名
学長	阿部 恩
学務部長	藤井 薫
宗教主事	塚本 潤一
准教授	谷本 月子
事務局長	藤井 道雄
ALO	吉岡 洋子

4. 日 程

月日	時刻	内容等	場所
9/12 (木)	13:30	大阪キリスト教短期大学一行着 挨拶・日程確認 相互評価 事前質問への回答・意見交換等 (1)	会議室 会議室
	15:30	学内見学	(次 表)
	17:00	相互評価 事前質問への回答・意見交換等 (2)	会議室
	17:30	今後の日程の確認と調整	会議室

学校見学の場所および順路

校舎名・フロアー	視察場所・順路
A 棟 2 階	会議室 (スタート) 事務室 (事務局・会計課・総務課・宗教部・ 学務部・進路支援室) →ピロティ
幼稚園、C 棟	頌栄幼稚園→C202、C101 教室
体育館	体育館→小体育室→学生食堂
D 棟 3 階	屋上→情報処理実習室→教室
D 棟 2 階	調理実習室→教室
D 棟 1 階	図書室→ホール

ハウ記念館	学生相談室→ハウチャペル→ハウ記念ホール
B棟3階	学生ホール→404,405教室→401教室
B棟2階	ピアノ室→絵画工作室→実習指導室→304教室
B棟1階	222教室→進路資料室→講師室
A棟2階	チャペル
A棟1階	図書館（図書室→第1書庫）
A棟2階	会議室（終了）

5. 会議概要

(1) 挨拶・日程確認

挨拶・自己紹介・本日の日程確認

(2) 事前質問への回答

頌栄短期大学『2012（平成24）年度 自己点検・評価報告書』の内容に対する大阪キリスト教短期大学からの事前質問事項（1～68）について、以下6. のとおり回答した。

(3) 今後の日程等確認・調整

相互評価報告書の作成に関して、日程、執筆や業務分担等を確認した。

6. 大阪キリスト教短期大学から頌栄短期大学への質問事項・回答

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
		はじめに	<p>頌栄短期大学 阿部 恩学長先生の記述で、頌栄短期大学自己点検・評価報告書を作成されたことを「嬉しく思います」と、2度お使いになられていることに学長の思い、決意を伺い知ることができます。他校の報告書を拝見しても伺えない言葉だと思えます。</p> <p>このような公文書にありがちな、謂わば紋切り型の挨拶でなく、頌栄なりのまた私なりの人間味のある文章にしたいと願いこのような表現を用いた。</p> <p>同時に、同じキリスト教主義大学としてその精神を大切にしている表現も意識したので、このような表現になった。</p>
1	表3 教員の資質向上のための教育、研究などの実質的支援や助手、副手、補助職員の配置の検討に対する成果について	5	<p>対策と改善の成果の表現が明確でないように読めます。特に教員の資質向上策と成果について、教えてください。</p> <p>明確な表現でないのご指摘の通りである。まだまだ不十分な対応であり、今後の課題である。学生による授業評価については、現在は各教員に還元し、各教員が次年度の授業内容に反映させる形で教員の資質向上につなげている。今後、アンケートの公表を含め、さらなる検討課題と認識している。</p> <p>特に、実習担当教員の補充を試み、学生指導が行き届くように配慮している。また卒業生であり、神戸市立幼稚園園長退職者を客員教授としてスタッフの1員とし、協力体制を組むなかで、教員の資質向上を目指している。</p> <p>専攻科7年目審査を経て「適」を大学評価・学位授与機構より受けたが、なお授業と研究業績の関連を指摘されており、教員にはさらなる研究活動への奨励を行っている。</p>
2		5	<p>幼稚園園長経験者の追加配置によって、教員の資質向上に対する実質的支援が期待されているようですが、具体的には何を指しているのでしょうか。</p> <p>学生への指導面では、これまで実習生を受け入れる側として指導に当たった経験を活かし、現場で実習生あるいは卒業生に、保育者として何を求めるかを教員が具体的に把握できる。 教員が現場感覚を持って指導に当たることが出来る。</p>
3	表4 入学定員、入学者数、入学定員充足率等について	7	<p>22年度だけが入学定員充足率が100%を割り込んでいますが、入試対策上特別な事情が発生したのでしょうか。</p> <p>平成22年度入試の推薦入試A（公募）の倍率が1.8であり、敬遠されたと判断した。高校の進路関係からも頌栄は難しいとの声も聴き、推薦入試A（公募）での評定平均値3.0を撤廃した。その代り、評定平均値×10を点数化して選考方法に加えた。同時に、配点を見直し、文章理解力テスト（100点）、音楽①歌唱（50点）、②視唱あるいはピアノ（50点）、面接（50点）、調査書（50点）、合計300点満点と変更した。なお、推薦入試C（専攻科進学）の評定平均値を3.5から3.3に変更し、推薦入試B（指定校）と同様にした。</p>
4	表6 退学者数について	7	<p>退学者が多い年度と少ない年度が分かれているようですが、理由はわかっているのでしょうか。またその対策について、教えてください。</p> <p>主な理由は進路変更である。入学時に「保育者」になりたいかどうか動機が曖昧だった者、中には入学してこんなに忙しいのか、勉強が大変なのを知って進路を変える者もいる。経済的理由や、健康上の理由による者は少ない。個々の相談に早めに乗るなどして、学業が続けられるよう支援している。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
5	表9 進学者数について	8	<p>大阪キリスト教短期大学に比べ、進学者数が多いです。地域的に短大卒業よりも大学卒業者の求人が多いのでしょうか。進学する学生の大学志望理由は何でしょうか。進学を推奨しているのでしょうか。</p> <p>保育職では、短大卒業よりも4年生大学卒業者の求人数が多いということはない。進学者のほとんどが本学専攻科で、ここ3年は他校への進学者はいない。他校への進学は特に推奨していない。専攻科への進学は推奨している。専攻科進学者の主な進学理由は、①学士取得、②幼稚園教諭一種免許状取得、③公立受験に有利である、④保育科での学びでは足りずもっと学びたい、⑤若干のモラトリアム、である。男子学生は専攻科志望が多い。</p>
6	表17、 p.45 人的資源、 p.48 事務組織 について	10	<p>図書館閲覧席数は52、図書館施設を開放されておられますが無料開放しておられるのでしょうか。また地域の方々が一日中席を埋めることはあるのでしょうか。職員の適正配置は何名と考えておられますか。</p> <p>図書館は無料開放をしている。昭和60年から地域に開放しており28年目になる。初めは頌栄幼稚園の保護者を対象に始めたが、年々頌栄幼稚園、近隣の幼稚園、近隣住民の利用者が増え、今日年間延べ利用者数は約3000人、1日平均19人、年間貸出数2万冊の3分の1を占めている。利用は学生が授業に出ているときになされるのでバッティングはあまりない。1日中席を占めることもない。常時カウンターには人を配置しておかなければならないので、司書とアルバイトの2名体制で対応している。現在、司書2名、アルバイト2名（半日勤務）で、実質3名で業務を行っている。現在システム入れ替え等の作業、日々の図書受け入れ、利用者へのサービスに追われており、蔵書・施設の管理等が十分行われていない状況である。もう一人くらい人員があればよい。</p>
7	教育情報の公表について	11	<p>学則、学生便覧、HP、広報誌などしこなど、記載内容により仕分けされているのでしょうか。</p> <p>HPについては財務情報を含む情報公表についての必要な情報を載せ、項目をクリックすると、便覧・学則・PDFで作成した資料等、該当する記載所が開くかたちをとっている。広報誌“なでしこ”については学校法人頌栄保育学院全体の年次報告に近い体裁をとっており、一部簡略化し記載している。学生便覧についてはPDF化してホームページに載せている。</p>
8	概要について	13	<p>全体として、建学の精神が確立し、その継承を学校全体の課題とし、教育目標・学習成果を明確に示している点を評価したいと存じます。</p> <p>学習成果の把握について、「ただし量的・質的な学習成果測定の方法論が確立しておらず更に検討を要する」とありますが、具体的に、どのような方法を考えておられますか。</p> <p>学習成果は、短期大学士の学位取得および保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得として現れるが、現場で通用する力や保育者としてのより高い能力や、人間性豊かな保育者という点では測定の方法を模索しているところである。授業評価を共有して、質の高い授業を行うことが、学習成果の質を高めることに繋がるのではと考えている。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
9	概要について	13	<p>3つのポリシーについて、「組織的・定期的な点検」をどのように行うことを考えておられるでしょうか。</p> <p>保育科単科の短期大学として、3つのポリシーの大きな変更はないかも知れない。しかし、保育行政の変化に伴い変更を余儀なくされることも予想される。まずは、学長のリーダーシップの下に、自己点検・FD委員会や部長会、教授会での検証作業での点検である。</p>
10		13	<p>・教員の研究活動について、今後奨励のため何か方策を考えておられますか。</p> <p>専攻科7年目審査の結果、さらに業績の積み増しが求められている。外部からの声によるだけでなく、教員自身の研究への情熱を大切にすべく、出来る限り研究活動が充実すべく、環境の整備も課題である。</p> <p>日本保育学会、保育者養成協議会研究大会等への発表などを勧めている。時には保養協の発表などは、大学から代表での参加を依頼してきたが、学内への報告など義務付けることを始めたい。</p>
11	基準Ⅲ 教育資源と 財的資源に ついて	13	<p>学生主体で学びやすい環境の大教室の新設が平成25年度に予定されていますが、主体的な学びへの特別な工夫は何かされていますか。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得のためには、講義中心の授業ももちろんあり必要なものだが、学生にとっては受動的になってしまう面もある。非常勤講師との懇談会でも学ぶことの意義、学ぶ姿勢等のことが話題となり、出来る限り学生主体の授業展開が求められている。新設の160人教室は、固定席でなく個人用の机・椅子に整えている。学生主体の授業の取り組みがなされることを期待している。</p> <p>大教室は可動式の机を配置し、パーティションで二教室に区切ることも出来る。グループ討議などに適しており、双方向的な授業がより可能になると考えている。</p>
12	基準Ⅰ 建学の精神 と教育効果 について	20	<p>週2回の礼拝への参加形態は必修でしょうか。自由参加でしょうか。</p> <p>必修で、出席を義務付けている。単位化はしていない。学生全体に参加するようにオリエンテーションなどを通して伝えている。宗教を押しつけるのではなく、建学の精神を学ぶ時として、また125年間の頌栄の学生が、この礼拝によって心養われ、保育者としての基礎を作る時として用いてきたことを伝えて、参加を呼びかけている。</p> <p>具体的には、毎回出席カードを配布して、出席状況を確認している。出席率は2013年度前期では、保育科1年94%、保育科2年88%、専攻科1年89%、専攻科2年68%であった。欠席回数が3分の1を超える学生には、聖書を読んだレポートを課したり、後期には学長と宗教主事による礼拝補講のような時を持つたりしている。</p>
13		20	<p>礼拝に参加した学生の反応はいかがでしょう。また具体的な改善の例をお教え頂ければ幸いです。</p> <p>概ね良好である。特に、礼拝は積み重ねであるため、その時その時には礼拝そのものの意味が分からない学生もいるが、卒業してからあの週2回の礼拝の雰囲気が好きだった、あの礼拝によって心落ち着けられ、整えられていたという感想をよく聞く。</p> <p>10時30分の定刻に始め、11時の定刻には礼拝堂から送り出されるということを習慣づけている。そのために各奨励者に奨励終了時間の厳守をお願いしている。礼拝に携わる者が緊張感を持って、かけがえのない時として過ごす。奨励に入ったらエアコンを切る。私語がある場合には教員がさりげなく礼拝堂の両側に移動する。派遣の前に全員の沈黙の時を作るなどの工夫を行っている。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
14	基準Ⅰ 建学の精神と教育効果について	20	<p>礼拝メッセージは個々の先生の特徴が出て内容的にも読みごたえがあり、よいものですが、このテーマは各自の先生で決められるのでしょうか。</p> <p>基本的に、教員各自がテーマを独自に決めている。ただ、月初めは院長・学長、月の後半は宗教主事とこれら三人の教職者が担当するようしており、教会暦に合わせたテーマの奨励を行うようになっている。</p> <p>また、現在ではアドベントに入ったらクリスマスの奨励を、とお願いしている程度だが、宗教部では学年暦と教会暦を合わせて、各月ごとの大まかなテーマを設定しようと協議をしている。</p>
15		20	<p>礼拝メッセージは宗教主事も担当されるのでしょうか。また宗教行事にはどの程度かわかっておられますか。</p> <p>宗教主事も担当している。また、現在院長・学長・宗教主事に加えて四人のキリスト者教員が交代で奨励を担当しているが、時期の関係で教員の回数が多すぎるようであったり、事情で奨励ができなくなった場合には宗教主事が代わりに担当する。キリスト者教員が一年に7, 8回とすると学長で10回、宗教主事で13回程度担当するようになっている。</p> <p>宗教主事は、すべての宗教行事の企画、運営を担当、すべての宗教行事に関わっている。</p>
16		20	<p>キリスト教関連科目に対する学生の感想・評価はいかがですか。</p> <p>宗教主事がキリスト教学、キリスト教人間学の二科目を担当しているが、キリスト教学では聖書の概論を通してキリスト教の基礎を学び、キリスト教人間学ではキリスト教に基づいて現代の人間の営みを学んでいる。それに対する学生の感想・評価は概ね良好でキリスト教学では、キリスト教に興味を持てるようになった、今まで自分が持っていたキリスト教のイメージとは全然違って親しみを持てるようになったという評価や感想を得ている。</p> <p>キリスト教人間学では、現代の私たちが直面しているさまざまな課題を提示していくので、キリスト教学よりは難しく感じるようだが、ほとんどの学生が興味を持ち続けながら授業に参加し、筆記型の期末テストでは予測・期待よりも熱心にまた深く考えてくれている。</p> <p>概ねキリスト教のことが理解できたと受け止めた学生が多い。授業も視聴覚など取り入れて工夫しており、プリントの配布なども丁寧に行っていることで、理解の助けになったと受け止めている。</p>
17		20	<p>こうした建学の精神に関わる教育は、学生の中で、他の科目にどう結び付き、生かされているのでしょうか。</p> <p>専任教員の多くは、礼拝にも参加している。奨励はキリスト者の教員で分担するが、この奨励内容は、時にそれぞれの教員の授業にテーマ・内容が持ち帰られて、授業内容と関連させて用いられている。</p> <p>総合演習は全専任教員での担当となるので、特に建学の精神に関わりの深い“人間の尊厳性”の内容は各授業に反映されている。</p>

質問番号	報告書 該当項目	報告書頁	質問事項および回答
18	基準 I 建学の精神 と教育効果 について	20	<p>特別礼拝等が年6回開催されておりますが、この内容はどのようなものなのでしょうか。礼拝時間は30分強だと思われませんが、その時間内で実施されておられますか。</p> <p>母の日、花の日、収穫感謝、社会事業奨励日、クリスマス、卒業の6回の特別礼拝を行っている。普段の礼拝は30分だが、I限とII限の授業より5分ずつ割愛し、40分の礼拝を行っている。クリスマス礼拝は90分、卒業礼拝は60分の枠で行っている。</p> <p>ハンドベル・クワイアによる前奏、聖歌隊による賛美、外部の講師（主に牧師）をお招きしての特別説教という内容である。花の日礼拝と収穫感謝礼拝の時には、集まった花や収穫物を持って近隣のこどもの施設、高齢者施設に学生たちと届けている。</p> <p>週2回の30分の礼拝時間を作るために、I限～V限まで5分ずつ割愛し85分授業としている。特別礼拝について、以前はI限をさらに10分割愛して45分間の礼拝としていたが、I限担当の教員から75分は短すぎて他のクラスと進み具合が合わず困るという指摘があった。そのため現宗教主事の赴任後は、I限・II限を各5分割愛、また特別礼拝も5分割愛する形に変更し、結果的に特別礼拝の日はI限80分、II限80分、特別礼拝40分となっている。</p>
19		20	<p>本年度よりカリキュラム委員会が発足されておりますが、この委員会の具体的な検討事項や開催時間、件数、課題、委員の構成について教えてください。</p> <p>委員の構成は、学長、学務部長、宗教部長、進路支援室長、図書館長、および音楽担当教員1名、表現担当教員1名である。検討事項は、カリキュラムの構造化による授業科目間の連携、教科目の整理、授業内容の点検である。例えば音楽の授業を必修科目の中で、器楽と声楽をすべて織り込むような工夫や、表現Iのオムニバス化など課題は多い。これまでに2回会議を持ったが、今後は最低月に1回、2時間の会議をもつ予定である。</p>
20	建学の精神 の確立につ いて	22	<p>毎週月曜日、職員祈禱会で建学の精神を確認されているようですが、具体的にはどのような祈禱会ですか。</p> <p>職務を開始する15分前の8時45分に集まり、黙禱の時を持ち、賛美歌を歌い、その日のローズゲン（聖書日課）から旧約聖書と新約聖書を読み、担当者が祈るという祈禱会である。担当者は、第一月曜日が学長、第二月曜が宗教主事、第三、第四、第五は各職員が交代で担当している。</p>
21	教育の効果 について	23	<p>教育の質の保証の具体的事例について、特に、授業評価アンケート実施で教育の質を査定する取り組みを、具体的な事例で教えてください。</p> <p>授業評価アンケートは、実践系科目の評価が高く、どうしても理論系科目は不人気で評価が下がるという傾向にあり、一概に比較できない難点があるが、「教育の質」という観点では、評価項目5「学習意欲が高められたか」、8「説明はわかりやすかったか」、15「意欲的に取り組めたか」、17「この授業に満足したか」などの得点が目安になると思われる。</p> <p>学生による授業アンケートの結果は、担当教員への還元にとどまっており、全教員の結果は現在学長のみが把握している。極端な場合は、担当教員と直接話をするところがある。従来から理論系科目は苦手であるとの傾向があるが、アンケート結果にも現れている。そのようなことを承知しながらも教員と話すところがある。</p> <p>なによりも、各教員の担当する授業アンケートを各教員が真摯に受け止め、次年度の授業内容に生かす努力を勧め、また期待している。</p>

質問番号	報告書 該当項目	報告書 書頁	質問事項および回答
22	教育の効果 について	23	<p>建学の精神の具現化としての授業の量的・質的学習効果の可視化をさらに進めるために、シラバスが量的・質的学習成果を示したものになっているかどうかを点検する仕組みを構築していくよう努める、とありますが、具体的にどのように考えておられますか。</p> <p>カリキュラム委員会で、全教科目のシラバスを点検し、本学が目標とする保育者像に対応できる内容であるか、構造化して考えている。</p>
23		23	<p>授業評価のフィードバックについて、新たなお考えはございますか。</p> <p>授業評価の公開あるいは教員間の共有、などを考えている。</p> <p>現在、自己点検・FD委員会でも検討中であるが、公表する方向で検討中である。</p>
24	教育目的・ 目標について	24	<p>キリスト教必修科目6単位、基礎教養科目10単位、専門科目54単位、合計70単位は、卒業のための単位数としては多いです。『学生便覧』p.24に理由が書かれていますが、保育者としての専門科目はもう少し少なくてもよいのではないのでしょうか。また、保育者としての免許状、資格を放棄した学生への卒業にむけての指導はどのように行っておられますか。</p> <p>ご指摘の通り、多いと思う。先に述べたカリキュラム委員会で、授業科目をスリム化する案を検討中である。</p> <p>免許・資格を放棄した学生には、今後の進路相談を始め、まめに相談に乗り、学習意欲を絶やさないように支援を強化している。</p>
25	『学生便覧』学則第4章 学修の評価および卒業等（卒業の要件）第25条	24	<p>グループアワーに関して、グループ担任制を実施されておられますが、グループの活動や指導などはいつに設定されておられますか。</p> <p>入学時のオリエンテーションで、昼食を共にしながら第1回の集まりの時をもつ。5月の春季研修会で2日間グループ討議を行う（1年次のみ）。11月の秋季キリスト教研修会でもグループごとに協議する（1、2年次とも）。進路ガイダンスで「働く」をテーマに討議したり、クリスマス礼拝時に総合演習の一環で協議を行う。卒業時の門出の集いもある。また、1年次は、前期試験前に学生生活について個人面談を行う。2年次は、1年次の成績不良者あるいは出席状況の悪かった者について、学務部教員とグループ担任が面談を行う。また進路に関する面談を2年時開始後全員に対して行う。さらに各実習後に園評価と自己評価をレーダーチャートにしたものを前にグループ担任が個人面談を行う。その他、2年次の就職に関して履歴書指導、推薦書作成はグループ担任が行う。随時個別の相談に乗る。</p>
26	学習成果について	25	<p>HP等で資格取得者数の公表をしていないとのこと本学も同様ですが、今後公開される予定はありますか。</p> <p>現在のところ考えていない。保育科単科の本学では殆どの学生が免許・資格を取得しているので公表しても良いが、現時点では考えていない。</p>
27		25	<p>実習の評価について、実際の評価方法で、何か困難を感じておられることがありますか。</p> <p>本学独自の数式を作り、従来の方法で得点を出している。その中で（実習園からの）評価の占める割合が高く（約8割）、園によって得点のつけ方にばらつきがあることが学生の得点に影響してしまう。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
28	学習成果について	25	<p>質的学習成果を査定する作業は難しいと思われます。本学でも方法を模索中です。建学の精神の教育効果についてアンケートを実施していますが、その結果はどうでしょうか。</p> <p>卒業間近に「本音で書こう」とのアンケートを実施している。概ね礼拝での奨励を受け止め、また共感するところもあるとの評価である。一昨年に記述してもらった感想では、「自分を見つめる良い機会となった。」、「1年の時は強制感があったが、次第に先生方の話に共感できた。」、「人生観についても考えられた。」等記入されていたが、次第に良い機会として受け止められていると認識している。</p>
29	教育の質保証について	26	<p>教授会に提供される法令等の資料は、データ表示され説明がなされているのでしょうか。</p> <p>法改正、制度改正、行政説明など、必ず資料を配付している。 必要なものは、口頭あるいはコピーして配布している。</p>
30	自己点検・評価とFDについて	27	<p>FD活動と自己点検・評価活動をどのように結び付けておられますか。</p> <p>現在、自己点検・FDに繋がる活動は、学生による授業アンケートが主である。これに関しては、担当教員にその科目のアンケート結果を返却し次年度のシラバスの活かすように勧めておりそのよう努力していると評価している。</p> <p>単科の短期大学であり、教授会も全教員が参加して行われ、授業の在り方や学生指導まで幅広く協議され、FDに繋がっている。また年度末に行われる非常勤講師との懇談会でも教育の質を問う議論に繋がる懇談会がなされており、全学挙げてのFD活動として評価できる。</p>
31		27	<p>教員間での授業参観の成果をどうフィードバックしておられますか。</p> <p>教員間の授業参観は、まだ実施していないが、自己点検・FD委員会では検討を始めている。</p>
32		27	<p>一部の教員が分掌・義務の多くを担っているとのことですが、実際に、教員と職員の仕事の分担と協力関係はどうなっていますか。</p> <p>各部・各委員会の分掌に関しては、学長の指名により教員一人が4～5の役割を分担している。職員に関しては担当部署の関連で、やはり学長の指名で分掌を決定している。できるだけ偏りのないよう配慮するが、担当部署や兼任の都合で一部教員に負担がかかっている現実是否定できない。学長・事務局長の管理力も問われているとその課題を認識している。</p>
33	入学前課題について	34	<p>入学前学習成果の把握・評価に関して、何か具体的に進めていることはありますか。</p> <p>入学前課題として書いた作文を全教員が分担して添削し、入学後に返却して、添削の際に教員が気づいたことを集約した上で、再度作文の書き方を指導している。</p> <p>特に提出等は義務付けていないが、ピアノの経験者・初心者問わず、もう一度ピアノに向かう姿勢を学び直してほしいとの課題、読譜力を確認する意味での課題を送付して自主的な学びを促している。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
34	学習成果の査定について	34	<p>卒業要件記載は丁寧な記述で学生は理解しやすいでしょう。一方、単位認定についての記述がありませんが必要ではないでしょうか。</p> <p>シラバスに、評価方法を記載している。学生には便覧p45の「履修要領」の7に「単位認定の方法」として周知させている。</p>
35	学生の卒業後評価について	35	<p>全教員と就職担当職員が就職先に出向き、卒業後評価を聴取しているとありますが、その場合、質問事項・確認の仕方、聞くべきデータ等の項目について、全員が同じ指針に従って行うのか、聞いている内容はどのようなものでしょうか。今後、客観的なデータを取る予定はありますか。</p> <p>各教員が卒業後、5月～6月に新卒業生の就職先を訪問し本人の様子を尋ねている。何か問題があれば園側から仰るので、細かい質問事項に基づいて聞いてはいない。概ねしっかり教育されている、記録はよく書ける者が多いと評価されている。また、大学に対してどのような要望があるのか、どのような学生を求めているのかも尋ねており、ガイダンス等指導に生かしている。園との関わりがそれぞれ違うので、項目を決めてデータを取ることは、特に今の段階では話しあっていない。</p>
36		35	<p>本学でも就職園への直接的な訪問の機会（就職お礼訪問、求人依頼訪問、実習巡回訪問）および就職先へのアンケートによって卒業生の評価を園側から把握していました。新しい自己点検・評価項目には、卒業生に対するアンケートによる学修成果の把握が入りました。そこで、本学においては急速卒業後2年、5年経過した学生にアンケートを行い、学修成果の把握を行うことにしました。貴学においても、卒業時のアンケートのほかに、卒業後のアンケートが必要ではありませんか。</p> <p>新卒業生懇談会を毎年7月に行っているが、その際アンケートで専門職として学校でもっと学んでおいたらよかったと思うものを自由記述で尋ねている。学んでよかった、役立ったものについては聞いていない。卒業後数年を経た者へのアンケートは今後検討したいと考えている。</p>
37		35	<p>就職学生から就職園の情報を収集されておられますか。</p> <p>新卒業生懇談会アンケートで、園の保育方針、保育方法、人間関係、労働条件等で悩み、困ったことがある場合、記述してもらうようにしている。一律に園情報を集めてはいない。就活の際、就職したい園に卒業生がいる場合、本人に了承をえて、受験者が直に卒業生に連絡し、園情報を得ている。そこでどのような話をしたかは、学校側からは聞き取っていない。</p>
38		35	<p>「保育職の定着率が悪く・・・」とありますが、どの程度ですか。また、その理由については把握されていますか。</p> <p>毎年のように数名の求人がある園もある。実情は詳しくは分からないが、多くは人間関係、労働条件が原因だと思われる。</p>
39	学生支援(b)について	37	<p>・教員間の授業公開の検討は実施に向けて準備を進めておられますか。</p> <p>今はしていないが、前向きに検討したい。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
40	学生支援(b)について	37	<p>「配慮を必要とする学生が増加」という現状は本学でも同様であり、個別の教員の指導では専門性に欠け無理がある事態が生起しています。このような学生に対する対応・指導の在り方についてどのような議論がなされていますか。</p> <p>部長会において「配慮を必要とする学生」について常時取り上げている。グループ担任と連携しながら、個別に課題は異なるが、学生相談室のカウンセラーにリファーしたり、医療機関の受診を勧めたりもしている。常に学務部会や教授会において「気になる学生」として情報を共有し、対策について話し合っている。</p>
41	教育資源の有効活動について	37	<p>学生を履修から卒業までのきめ細かな指導はグループ担当制とありますが、具体例を挙げて教えてください。</p> <p>p24の質問と重複するので省略する。</p>
42	学習支援について	38	<p>「グループ担当教員」は、実習後の個人面談も行っておられますが、保育関係科目担当の教員でしょうか。</p> <p>院長、学長、幼稚園長を除く全教員で行っている。</p>
43	奨学金について	39	<p>実際に経済的理由で学業を途中で断念するケースはありますか。</p> <p>少ないがある。2012年度は1名であった。</p>
44		39	<p>日本学生支援機構などの奨学金を受ける割合はどの程度ですか。</p> <p>予約奨学生が増えている。日本学生支援機構第一種、第二種、本学独自の奨学金を合わせて48%が受給している。</p>
45	学力の違いに応じた学習支援に関して	39	<p>貴学の「総合演習」は、キリスト教精神を基に「人間の尊厳性」をテーマに2年間を通じて学習するユニークかつ貴重な科目であると思います。この中でリテラシーの指導が行われていますが、文章力の違いは指導により向上しますか。文章力の基礎が弱い学生への特別な指導はしておられますか。</p> <p>向上すると思われる。「総合演習」では、入学前の課題図書読書の読書感想文から始まり、漢字検定の受験準備で漢字を学習し、文章表現の「講義」「テーマを設定した作文」「業者による添削」「再作文」「各グループ担当による添削」という一連の流れを各学年で行っている。また「総合演習」の各セッションごとにレポートの提出を行っている。これらの一連の流れによって、文章の基礎的な約束事に始まって、何をどのように表現するのかの指導を受けて、実際に書いてみて客観的・主観的に見直していくことができ、文章力は徐々に向上していく。特に、文章力の基礎が弱い学生や文章力に問題が見られる学生に対しては、各グループ担当が文章力アップのために個人対応を行うこともある。</p>
46	学生食堂(業者委託)について	40	<p>「家庭会からの援助で、学生は教職員や一般の人より、安価に利用出来るよう値段の便宜を図っている」とありますが、利用率は、どの程度でしょうか。</p> <p>定食は教職員が430円のところを学生は350円として、80円分家庭会から援助している。全学生の約20～30%程度が利用している。メニューが少ないなどの声が多い。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
47	保健室について	41	<p>休養室や医務室についての記載がありますが、保健室はないのでしょうか。</p> <p>現在は休養室のみ設置している。従来、学務課から距離があり階段や坂道があるため車椅子の利用も難しく、この夏の工事で、職員の目に届く場所に休養室を設置した。また今年度後期より、パートでの看護師を月～金、10:00～16:00で配置することを予定している。</p>
48	進路支援について	41	<p>教員4名と事務職員2名体制及びグループ担当の専任教員がさらに協力して進路支援をされておられますが、就職・進学について全学挙げての取り組みは教員負担増とのご意見はありませんか。</p> <p>確かに負担になっている。しかし、学生が未熟になり丁寧な指導が必要になっている。進路担当教員4名、職員2名では対応しきれないので、グループ担当教員に進路希望面談、実習振り返り面談の際の進路の聞き取り、履歴書添削、面接指導、就職お礼訪問（5～6園）、就職開拓訪問（5～6園）などを担っていただいている。</p>
49		41	<p>常駐の専任職員がいないことで起こる困難、例えば、就職活動に対して受身であったり、決断に時間がかかったり、就職先と学生とのマッチングの問題など、どのように解決されていますか。</p> <p>進路資料室の部屋に常駐していないので即座の対応ができないだけである。もちろん受身、決断に時間がかかるなどの学生には進路担当者会議でその都度話し合い、進路担当者、職員、グループ担当者のいずれかが働きかけており、ミスマッチのないようにはしている。</p>
50		41	<p>卒業生の再就職支援担当者は、どのように分担を決めておられますか。</p> <p>再就職支援については主に職員が対応している。卒業生には、HP、学院報などで再就職斡旋について知らせ、再就職希望登録をしてもらっている。昨年は、求人数が86名あり、条件等検討したうえ31名に紹介し、14名が決定した。</p>
51	(a)その他の資格等取得について	42	<p>「社会福祉主事任用資格」は保育士資格を取得すれば全員取得できるのではないのでしょうか。また、市民救命士小児コース、ピアヘルパー、キャンプインストラクターの資格に関して、希望者に特別に講習をするなど支援していることはありますか。</p> <p>社会福祉主事任用資格、いわゆる3科目主事と言われる3科目のうち、社会福祉概論、保育原論(法定科目は保育理論)の2科目は保育士資格必修であるが、3科目目は社会学または心理学なのでこれは選択科目。よって保育士資格と一致するとは限らない。</p> <p>市民救命士(小児コース)は全員受験。キャンプインストラクター、ピアヘルパーは希望者のみである。ピアヘルパー受験に関しては直前講習会を2回実施している。</p>
52		42	<p>学生全員に漢字検定を受けさせておられますが、検定の受験料に対して、補助をされているのでしょうか。</p> <p>漢字検定の費用は家庭会から全額援助している。家庭会の会費の中で「学習支援」という支出項目を作っていただき、そこで検定料を支出している。受験級によって検定料が異なるが、何級を受験してもトータルの検定料として家庭会から支出している。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
53	(b)課題について	42	<p>「少数ではあるが、就職活動をする意欲に欠ける学生や、基礎的な学びが不足している、適性に欠ける学生がみられるようになり」という状況があることは、本学も同様です。それに対して、総合的な検討とは、入試の検討（p.44参照）のほかに、具体的には何を検討する予定ですか。</p> <p>就職活動等の意欲に欠ける学生は、学習意欲も低いことが多い。また、基礎的な学びの根底は国語力不足と考え、文章指導に力を入れている。総合的な検討は、具体的には「基礎演習」という形で、文章、漢字、日常生活の常識を学ぶ場を作ってはどうかと考えている。意欲の問題は、生活の中で関わりを増やし、目を離さないことなどが挙げられる。適性に欠ける学生の指導に関しては、特に実習指導の中で徹底させていく。</p>
54	入学者支援について	43	<p>成績優秀な志願者に対し、一定数の学生を学費免除するなどの方策は取っておられますか。給付型の、「エ・エル・ハウ奨学金」、「報国積善会奨学金（岸本奨学金）」（学生便覧p.58）について、教えてください。</p> <p>「エ・エル・ハウ奨学金」は、キリスト者または求道者で人物・学力共に良好で、学費の援助を要する者、の条件に合う者を公募し、希望者は、奨学生委員長と宗教部長が面接を行い、教授会の議を経て決定する。2012年度は3名（各10万円）が給付を受けた。</p> <p>「財団法人報国積善会奨学金（岸本奨学金）」は、人物・学力共に良好で、将来保育者を目指す者の中から選ばれる。1年次の成績順位が上位の者から奨学生委員会で面接を行い審議した上で推薦し、教授会の議を経て決定する。申込者（自薦）および成績順位上位の者（他薦…10位以内が目安）で、2012年度は、保育科12名（15万円）、専攻科2名（10万円）が支給された。</p>
55	公欠について	43	<p>補講は実施されていますか。</p> <p>必ず実施している。非常勤講師にも徹底してお願いしている。</p>
56	オープンキャンパスについて	43	<p>全学生数の1/4が自主的に参加されていると記載されていますが、オープンキャンパスの学生ボランティアは、全くの無償ですか。</p> <p>オープンキャンパス参加者には交通費、アルバイト料は支給していない。無償である。弁当、飲み物、ユニホーム（ポロシャツ、ブルゾン）は支給している。</p>
57	課題について	44	<p>保育者としての適性に欠けるというケースは、どのようなケースでしょうか。また、その場合の対応はどうされていますか。資格取得については、どうされていますか。</p> <p>実習園から実習を続けることが困難と言われた場合、実習を停止する。停止の内容の主な理由は、子どものいのちを守れない場合、危険な状況に気づかなかつた場合、指導者の指示に従わなかつた場合、などである。資格あるいは免許取得は出来ない。その後の指導で、可能な場合には、卒業後科目等履修で単位を取得する場合もある。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
58	基準Ⅲ教育資源と財的資源について	45	<p>教員が多忙で研究業績の積み上げができないという現状で、それを改善するために、何か積極的に研究を奨励する体制をとっておられますか。また、外部の競争的資金（科研費など）の申請状況はいかがですか。</p> <p>特に具体的な対策は講じていない。専攻科7年目審査でも明確になったように、各教員の担当科目に相応する業績の必要なことを機会あるごとに伝え、研究成果を挙げてもらおうように訴えている。</p> <p>現在、前任校との関連も含め、3名の教員が科研費のもとに研究成果をあげている。</p>
59		45	<p>月1回の事務職員会での情報共有や連携はうまくいっていますか。どのようなことが話されますか。</p> <p>開催は、部課長会（火曜日）が行われる週の金曜日（第3週か第4週）に行う。まず、宗教部、図書館、学務部、（教務・学生・更新講習関連）、進路支援室、総務課（施設含）、会計課、幼稚園からその月及び翌月の報告・連絡が行われます。事務局から、その月の教授会報告・事務局報告をできるだけ詳しく行う。50分の時間をほとんど報告にあてている状況である。職員のほとんど全員が発言をすることになり、他部署また全体で進められている仕事の理解の場になっていると思う。研修に行った場合の報告もこの中でおこないたいが、時間がとれないのが実情である。</p>
60	人事管理について	48	<p>規程集の改定版配布は加除式の採用でしょうか。CDなど電子資料での配布でしょうか。</p> <p>現在は改訂される規程は多くないため加除式になっている。また学生関係規程は学生便覧に記載しており、変更があれば毎年変更されている。</p>
61	【学生便覧について】		<p>学則第19条2（p.16）演習の単位認定について、別に定める授業科目については15時間から45時間の授業をもって1単位とありますが、短期大学設置基準第7条2-1の「30時間まで」という条件をオーバーしているように思われます。</p> <p>授業科目履修規定の別表においても30時間までの設定である。便覧の「ただし～」以下の文言は削除すべきであり、古い文言が残っていたようである。</p>
62			<p>カリキュラム・ツリー（p.30）により、学びの順序がよくわかります。本学でも緊急に作成する予定であるため、参考にさせていただきたいと思います。保育者養成として、最近の学生が子どもに関わる機会が少ないという現状から質問させていただきます。1年生前期は理論的なことばかりで、子どもと関わる機会が少ないようです。カリキュラム構成は、学生の子どもの関わりという保育者としての実践的な能力と保育理論、そして社会人としての能力（キリスト教精神を含む）の向上を同時進行させることが、より学生の現状に即したものになるのでしょうか。</p> <p>最近の学生は子どもと関わる機会が少ないが故に、専門職として子どもと関わる事が出来るようになるための助走が必要と考えている。1年次の前期は、本学では高校での学びから大学での学びへの転換期であり、学びの基礎を培う時期と捉えている。従って前期の間に基礎的な知識、理論を中心に学習する。一方保育内容系のⅠ（いわゆる5領域）はすべて前期で履修し、実習に備える。子どもの姿は、幼稚園見学、幼稚園長の講話他、視聴覚教材を用いて「子ども理解論」や「保育内容総論」などで学ぶ。そして、9月に保育園、施設見学をおこなったのち、後期より3ヶ月間、毎週2回の観察実習を行い、1月の保育実習につなげていくというプロセスをたどる。ご指摘の「学生の子どもの関わりという保育者としての実践的な能力と保育理論、そして社会人としての能力の向上」に関しては、本学でも同時進行は当然のことと考えているが、スタートは1年次後期からとしている。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
63	【学生便覧について】		<p>カリキュラムに関して(p.32)、総合演習および総合演習1と2に関して、この科目は、たとえば隔週などで通年で15コマの実施なのでしょうか。</p> <p>2011年度生までは「総合演習」として2年間で2単位としていたが、2012年度生からは1年で「総合演習Ⅰ」、2年で「総合演習Ⅱ」と分けて、通年で1単位ずつにした。「総合演習Ⅰ」も「総合演習Ⅱ」も一年の中で日程を決めているが、春季研修会、秋季研修会、クリスマス礼拝後などはスケジュールされた日程で、またその他のコマは担当の教員の予定に従って、「総合演習・特別講義・実習事前事後指導」と設定された時間割に埋めていき実施している。詳細は、別紙プリント「総合演習について」を参照して頂きたい。</p>
64			<p>授業科目履修規定 第5条2 (p.75) 授業時間の算出に、1講時90分を2時間と見なすと明示されておりますが、御校では85分授業も存在し、それもあわせて明示しておく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>現時点ではこのままで良いと考えている。</p>
65			<p>授業科目履修規定 第13条 (p.76) 公認欠席に関して、近畿厚生局からは15回の授業回数数が求められておりますが、当該学生への補講は実施されておられるのでしょうか。</p> <p>必ず行っている。</p>
66			<p>頌栄短期大学奨学金規程 (p.86) があり、1995年の阪神淡路大震災以後、規程が変更になったようですが奨学金について質問させていただきます。「本学独自の奨学金制度を設けたり、緊急貸与」とありますが、返還状況はどうですか。返還金の減免措置を行ったことはありますか。(p.40)に奨学金の内訳が報告されています。その後の一般的経過等について、また緊急貸与の手続きや判定等について教えていただきたいです。</p> <p>返還状況はおおむね良好である。一部遅れている者に対しては、毎月チェックし、必要であれば電話などをして督促もする。減免措置に関しては過去にあったかもしれないが、ここ7年はない。返還期間を猶予した例は、2012年度に1件あった。緊急貸与に関しては、学納金が期日までに納入できず、かつ、延納あるいは分納の目処が立たない場合、申請書に保護者が事由を記入し、奨学生委員会で審議し、教授会の議を経て決定する。</p>
67	【授業計画・授業内容(シラバス)について】	42	<p>『体育』の授業計画・内容が、8回しか書かれていませんが、授業回数も8回ということでしょうか。</p> <p>授業回数は1単位分、7.5回のところを8回実施している。体育講義1単位、体育実技1単位として開講している。</p>

質問番号	報告書該当項目	報告書頁	質問事項および回答
68	【頌栄保育学院報について】	6	<p>2009年度、2011年度に入試改訂をされたとありますが、具体的にはどのような改訂をされたのでしょうか。また、質の低下を防ぐために工夫されている点を教えてください。</p> <p>平成21年度には、評定平均値を、推薦入試A（公募）では3.3→3.0に、推薦入試B（指定校・キリスト者・同窓子女）では3.5→3.3に、推薦入試C（専攻科進学）では3.8→3.5に改めた。また推薦入試A（公募）では面接点を、従来の参考点から点数化した。さらに、推薦入試A（公募）の音楽試験を、従来①初見視唱、②自由曲の歌唱としていたが、②の自由曲の歌唱はそのまま継続して行い、①の初見視唱を改め、視唱あるいはピアノ演奏、どちらかの選択とした。視唱はハ長調・4/4拍子・4小節とし、ピアノ演奏は募集要項と同時発表する12小節のマーチ3曲から受験生が自由に選択してよいとの改革を試みた。社会人入試・学士取得見込者入試も、推薦入試Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期に合わせて行うこととなった。</p> <p>平成23年度入試では、平成22年度入試の推薦入試A（公募）の倍率が1.8であり、敬遠されたと判断した。高校の進路関係からも頌栄は難しいとの声も聴き、推薦入試A（公募）での評定平均値3.0を撤廃した。その代り、評定平均値×10を点数化して選考方法に加えた。同時に、配点を見直し、文章理解力テスト（100点）、音楽①歌唱（50点）、②視唱あるいはピアノ（50点）、面接（50点）、調査書（50点）、合計300点満点と変更した。なお、推薦入試C（専攻科進学）を3.5から3.3に変更し、推薦入試B（指定校）と同様にした。</p>

(2) その他、訪問当日の質問事項と回答

大阪キリスト教短期大学から頌栄短期大学へ

	内 容
1	<p>【求人関係】 求人依頼まわりはどのように実施しているか。</p> <p>毎年7～8月頃に、教職員の分担（5～6園ずつ）で実施している。</p>
2	<p>【学務】 各教員の担当コマ数はそのくらいか。</p> <p>データが手元がないが、教員により違いが大きい現状である。概ね半期7コマだが、10コマになる教員もいる。</p>
3	<p>【グループ担当制】 グループ担当制について全教員が担当するのか。</p> <p>学長と幼稚園長を除く全教員が担当している。</p>
4	<p>【教務事務】 教職課程関係で阪神地区の協議会に出席されていると聞いたが、どのようなものか。</p> <p>免許・資格を出す大学として、阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会には、他校の情報を得る、また教務事務の勉強のために参加している。</p>
5	<p>【便覧】 「器楽」に色々な楽器が記されているが、ピアノを弾けないと現場で困るのではないか。</p> <p>ピアノは全員が学ぶ（器楽Ⅰ～Ⅲ）。器楽Ⅳでは学生の希望で楽器（リコーダー、ギター等）を選ぶ形でクラス分けをして、ピアノ以外にも楽器に挑戦して保育に生かせるように設定している。</p>
6	<p>【便覧】 土曜日は授業日なのか。実習で授業が一部抜けるのに、期末に授業が終了するのはなぜか</p> <p>全てではないが、不定期に一部の土曜日が授業日である。実習で抜けた分を土曜日に実施しているため、期末に授業が完了する。</p>
7	<p>【入試】 視唱について、どのようなものか</p> <p>入試過去問題集に掲載の通り。以前は8小節であったが、2009年度入試改革で4小節という短い曲にした。短いので取り組みやすいと考えて変更したが、受験生にとっては短いゆえに歌にくい面もあるようではある。</p>
8	<p>【自己点検・評価報告書p.26】 法令関連の学内への周知について、把握や通知の主体はどこか</p> <p>学務課が中心となって発信し、教授会で共有している。</p>

4.相互評価結果

(1) 大阪キリスト教短期大学に対する総括講評

頌栄短期大学

基準Ⅰ 建学の精神と教育効果について

【評価できる点】

(1) 建学の精神は明確にされ、フリーメソジスト教団の伝統に則り、聖書的人間観に基づく人間教育を目指し、特に『道・真理・いのち』であるイエス・キリストに倣って神と人とに仕える人間の育成を目指していることを実践的に、教育に活かしておられることを評価したい。

この精神を学ぶ機会として、週 1 回行われる礼拝には2/3以上の出席が義務付けられ、卒業要件にもなっており、建学の精神を大切にまた大阪キリスト教短期大学の全教育の根幹をなすものであるとの気概を感じる。学生がどのように受け止めているのかも聞きたいが、教員も出席率が良いとのこと伺い、この点を評価したい。

教授会開始前にも小礼拝をされる等、一貫して建学の精神の教育を大切にされていることを評価したい。

(2) 平成 23 年度には前年度の教育目的見直し作業の結果、現在の教育目的に定められたが、建学の精神はこの教育目的にも明確に反映され、学生募集要項にはアドミッション・ポリシーに先立ってこの目的も明記されているので、受験生にとって解りやすく配慮されている。同時に、新入生研修会においてもこの目的の意味するところを詳細に説明されていること、また入試担当主催の高校教員への説明会でも説明され、入学前から一貫して教育目的およびアドミッション・ポリシーに繋がる貴学の教育姿勢を評価することが出来る。またこの新入生研修会において在校生が各ゼミから1名、それぞれの役割を与えられて参加し、ガイダンスを行うなど斬新な企画も評価できる。

(3) 教育の質の保障に関して、貴学の教育課程の見直し作業を日常的に行ない、その結果は即次年度に生かされている事を評価する。月毎に開かれる学科協議会、教務委員会での見直しが翌年の教育課程に生かされ、履修方針に反映されているが、組織としての機能も十分に生かされての質保障への努力を評価したい。

(4) 学習成果の査定に関しては、基本的には定期試験やレポート、作品提出などでの成績評価が中心であるが、成績に関して学生本人と保護者へ通知し家庭での支援体制を採っていることは評価できる。さらに①学生による「授業アンケート」、②教員による「相互授業参観週間」、③学生の資格取得率に表れていると位置付け、④自己点検・評価報告書において全学的な点検・評価活動が行われている。授業アンケートに関しては、担当教員に結果が還元されているがその公開性の方向性が課題である。相互授業参観では教員が定められた 2 週間の期間中に、授業参観を実施しその評価を学内閲覧とする経緯を、FD 活動および学習成果に繋げているが、この取り組みを評価している。

【今後の課題】

(1) 教育の質の保障に関して貴学の教育課程の見直し作業は、月毎に開かれる学科協議会・教務委員会での検討により翌年の教育課程に生かされるなど、その機能が円滑に果たされていると思うが、報告書では、自己点検・評価報告の内容から翌年の修正に繋がりにくいとの反省点が記述されている。この点の今後の検証と点検から修正へのサイクルが十分機能することを期待したい。

(2) 建学の精神に基づく教育目的「愛をもって人に奉仕する豊かな人間性」との達成目標に関する評価の困難なことを明記しておられる。本学でも同様の悩みを抱えているが、この課題に関してのさらなる検討を期待すると共に、両学院の依って立つところの建学の精神に関する教育が、豊かな人間性の構築に欠かせない視点であることを全教員で共有して担ってほしい。

(3) 学習成果の評価方法に関して、そのシステムをまだ有していないとの記述があるが、今後の開発また検討に期待する。また就職先や卒業生へのアンケート等による量的・質的データによる自己点検作業が進められることを期待する。

(4) ディプロマ・ポリシーは明確にされ、これに基づき教育課程が編成され、これがカリキュラム・ポリシーにおいて現実に実施されるように配慮されているとの記述であるが、ウェブ上の公開および要覧への記載の必要が改善計画として記載されている。何よりも学生に手渡す要覧への掲載は次年度に向け急がれる事柄と認識し、この作業が急がれることを期待する。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

【評価できる点】

(1) 多様な科目を体系的に編成している。幼児教育科にあつては、学生の理解にそつて1年生から2年生へと幼児理解、幼児教育理解を深めていけるように編成されており、国際教養学科にあつては、国際的な教養・文化に関する学科目を基底とし、これに英語を中心とした語学教育の分野とビジネス、情報処理を中心とした実務教育の分野が教育課程の根幹となっている。

(2) キャリアセンター担当者が、幼稚園、保育園、施設、あるいは企業を訪問し、卒業生の評価を確認している。この訪問により学習成果の点検がより明確となっている。

(3) 学生支援において、事務職員および専門の職員の配置が充実している。

(4) 授業評価を有効に利用している。各教員が授業評価を確認し、その結果に対する反省・意見をレポートとして提出している。授業改善にもつなげる利点である。

(5) 各学科協議会で授業内容に関する議論がなされている。

(6) 教授会の会議資料の電子化がなされている。会議前に資料の点検が出来、また資源(紙)の節約になる。

(7) PC教室は授業外の時間、自由開放をおこなっている。また学内にWi-Fiアクセスポイントがいくつかあり、利用を希望する学生は情報システム担当にWEPを訪ねることで利用が出来る。

(8) 実習指導のスタッフが多く、丁寧できめ細かい実習指導が展開されている。特に、実習において子どもと関わる能力が不足の学生に対しては付属の幼稚園で練習実習が行われていることは、他学になくシステムである。

(9) 複数の海外研修ツアーが企画・実行されており、学生の見聞を広めるのに役立っている。

(10) 学生のメンタルヘルスへの対応は手厚い。特に学生生活支援室には臨床心理士、学校心理士、特別教育支援士の資格を有する専任教員が配置されており、他教員との連携が十分である。

(11) ボランティア活動参加率が6割と高い。

【今後の課題】

(1) 基礎学力が不足する学生の増加に伴う体制作りが課題である。学習成果が学生の質と共に低下の傾向にあることは本学でも喫緊の課題であるが、学生の意欲を高め分かりやすい授業の工夫が望まれる。

(2) 入試の形態、入試科目の検討が課題である。ピアノ演奏力を持つ受験生の減少など、保育・幼児教育に必要な科目の周知が必要である。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

【評価できる点】

(1) 博士学位を有する教員6名、現在大学院等で学位取得準備の教員3名がおられるとのこと、そして学院として分掌を軽減するなどサポートする体制があることは、その学院挙げての研究への意欲・情熱が必ずや、各教員の授業に、ゼミに、学生指導に活かされるであろうことを確信し評価している。また修士・博士学位を取得していない教員にも積極的に取得を奨める学院の姿勢も評価している。

(2) FD活動に関して、年1回の研修を企画し、教育現場に共有すべき課題について学ぶ時としているが、障がい学生やメンタルヘルスといった直接学生と関わる教員が等しく認識しておく課題であるので、このようなFD活動を評価したい。

SD活動も外部研修を通しての業務研修を、報告会を通じて共有しているが、将来的な代替勤務や職務のローテーションなど視野に入れての現状での研修と理解し、この努力を評価したい。

また事務職員の役職位変更の規定を活かして適宜運用していることも、職員の就業意欲への取り組みとして評価したい。

(3) 学生サービス評価でも図書館への評価は最高位にあり、その施設・利用者サービス面でも高い評価を得ているとのことである。実際に貴学を訪問した際の見学でも、良く整えられた図書館であると評価している。廃棄システムも整っており、時代に応じ、必要に応じ、研究に応じて整備されているのを目の当りにし評価している。

さらに学生図書委員会が組織され、学生の意見を聞きつつ運営されていることも評価したい。

(4) 築40年を経たの校舎であるが、平成26年3月をもって7号館を除いてバリアフリーおよび耐震工事が終了するとのことであり、今日までの中・長期の工事計画が順調に履行されたと評価している。なおインフラ・重要設備の更新など、課題山積の様であるが、今後の中・長期計画に期待したい。

(5)危機管理に関して、年1回の避難訓練を実施しておられることを評価する。住宅密集地であり、学内での避難場所と経路の確保が最優先だと思うが、これには訓練が必ず生きると確信する。

【今後の課題】

(1) SD および FD に関する研修規定の整備が急がれるのは、本学も共通している事項であるが、この課題が早い時期に整えられるように期待している。また、記述されていたように、事務職員役職位変更規程の評価規定の作成も望まれる。

(2) インフラ・重要設備の更新など、課題も残されている様であるが、今後の中・長期計画に期待したい。

(3) 災害時の安全性確保のための運用・規程の作成を今年度中に作成とあるが、これが整うことを期待している。

(2) 頌栄短期大学に対する総括講評

大阪キリスト教短期大学

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果について

【評価できる点】

(1) 明治 22 (1889) 年の創立当初より、一貫してキリスト教の精神による教育を建学の精神とし、その理念を掲げ明確に内外に表明している。またその精神を、教育の中で常に意識し学生に浸透するよう礼拝、研修会、学校行事等を通じて学生に伝えられ、教職員間にも共有されており、定期的に確認されている。授業においてもキリスト教精神を伝えるための科目が工夫され、全教員が担当することで、学生に対し徹底する努力をしている。こうした建学の精神が、明確に保持され表明されているところに、頌栄短期大学の誇りと変わらない教育への姿勢を見ることができる。

そうした精神全体が、学院の隅々に浸透し、よりよい教育を求めての努力につながっていることを、相互訪問時に確認することができた。

(2) キリスト教を建学の精神とすることから、理事長、学長にクリスチャンコードを設け、宗教主事が配置されており、そのことで学生の教育の中心としての宗教的リーダーシップを発揮しており、礼拝をはじめとする宗教行事が企画運営されていること、礼拝の主題が一貫して伝えられていること、礼拝が必修であり学生がレスポンスカードをもってその内容に応答していること、またキリスト教関連の必修科目においてその精神を学生に共有できていることから、キリスト教関連科目を通じての建学の精神の伝達と、そのための授業改善や科目の在り方の検討が継続的に行われている点が評価される。

(3) 教育目的・目標は確立されており、3 ポリシーも明示されている。学生の学習成果は、短期大学士の学位取得と共に保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得という学科の目的において、ほぼ全員が取得していることで測られている。また個々の授業における成果も、シラバスの改善を通して明確にされるようになった。

教員もまた、短期大学設置基準、保育士養成等に関わる法令・公文書等について周知され、研修会への参加や情報共有等が行われている点で、質保証のための努力も一致しておこなわれている。カリキュラムツリーを作成し授業内容の共有・整合性等を持たせた努力がなされている。

(4) 学院の自己点検・評価活動について、規程と組織を整備し、常に自己点検・評価活動を、全教職員により行い、その成果を公表している。

(5) 「総合演習」は、キリスト教精神を基に「人間の尊厳性」をテーマに2年間を通じて学習するユニークかつ貴重な科目である。保育者の資質として貴学がアドミッション・ポリシーで掲げている「人間性を問いかける姿勢」を学ぶ科目であると思われる。建学の精神を大切に、保育科単科の短期大学として保育者養成に邁進する貴学の真骨頂が凝縮された科目であると、高く評価できる。

(6) カリキュラムポリシーが明確でかつカリキュラム構成図が提示され、各科目間の関係がわかりやすい。理論科目と演習・実習科目の関連性を視野にいたした学習成果を期待できる。学生が学びの過程を把握して勉学に励むことができるようになっている。

(7) 学生への個別対応が懇切になされている。学習面においては、学長・園長を除く全教員によるグループ担当制により、共通の項目による面談を通しての指導が行われている。特に指導の必要な学生に対しては、部長会、教授会で把握して指導がなされている。

(8) 学習成果の確認では卒業時アンケート「本音で書こう」などを通じて、できるだけ実態に近い学習成果を確認しようとしている。

(9) 貴学専攻科への進学者が多くより深く保育の学びができる。短大と専攻科が効果的に連携できている。

【今後の課題】

(1) 平成 26 年に創立 125 年を迎えるのを機に、5 年にわたるプロジェクト委員会を通して建学の精神および理念についての検証を行ってきたことは、学院独自の努力として注目したい。その具体的な展開について、全学に共有され、またその具体的な成果を今後明らかにされたい。

(2) 教育の一層の向上を図るための PDCA サイクルは、I-C における自己点検システムとも相まって、今後の整備が期待される。

また、教育の質保証につながる授業評価の活用法、シラバスの内容の妥当性のチェックシステム、学習成果の可視化等の具体化が課題であろうと考えられる。学習成果の量的・質的データの測定の仕組みは、必ずしも一義的なものではなく、今後の工夫が必要などころである。今後も一層の改善努力によってよりよき学習成果の獲得につながることを期待するものである。

(3) 組織的自己点検・評価活動が不十分であったという反省は、現在の評価システムが周知されていない点も考えられるため、報告書にあるように、平成 25 年中の規程の整備、また委員会における具体的な取り組みへの一層の努力が期待される。

また、具体的に授業評価アンケートの活用、また卒業生アンケートの実施が挙げられているが、こうした学院全体のチームワークにより、個々人でなされている努力を組織として積み上げていくことが必要と思われる。

(4) 基礎学力の乏しい学生への対応がまだまだ整備されていない。これから増加が予想され、グループ担当の教員による指導にも限界があると思われる。学力差に応じた教育システムまたはカリキュラムの開発が望まれる。

(5) 学習成果の確認において、保育者の質的学習成果を確認する方法が確立されていない。「総合演習」、礼拝などによって、保育者として高い資質を獲得していると思われるが、それを可視化する方法を創出する必要がある。

(6) シラバスに単位認定について記述を掲載する必要がある。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援について

【評価できる点】

(1) 学科の学位授与の方針は、卒業要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示しているが、まだ学則には規定されていない。学位授与の方針はホームページや学生便覧を通じて学内外に表明されている。学位授与の方針は保育士・幼稚園教諭二種免許取得の水準として社会的に通用するものであり、またその成果として、ほとんどの学生がこの2免許を取得し、希望者の100%がその資格を生かして就職している点でも、社会的に十分評価されるものである。

(2) 教育課程編成の方針は、学位授与の方針に対応し、さらに学習成果に対応したわかりやすい授業科目を設定しており、成績評価は教育の質保証に向けて厳格に適応されているといえる。シラバスには、ガイドラインに基づき必要な項目が記載され、教育課程は体系的に編成されていると判断される。教育課程には資格・業績に基づいた教員配置がなされている。

(3) 入学者受け入れの方針は明確に表明されているが、必ずしも入学前の学習成果の把握、評価が十分にできていないとの反省に基づき、入学前の指導を充実させている。教員が入学前に学生の状態を把握し、準備をするなどの対応は行われているが、今後、学生募集の段階での周知を行うことで、志願する生徒にも一定の準備ができると考えられる。なお、入学者選抜の方法は、方針に対応して多様な入試方法が準備されている。

(4) 学習成果のアセスメントについて、保育士資格と幼稚園教諭二種免許取得という具体的成果が示され、入学者ほぼ全員が在学期間中に達成可能である。これらは実際の職業資格として価値を持ち、測定可能である。学習成果として、各科目における成果の可視化をめざす努力はすでに自覚されており、実施されることが期待される。

(5) 教員は、学科の学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。教員は学位授与の方針に対応した成績評価基準をシラバスに示し、その基準に基づいて学習成果を評価し、その状況を把握している。教員は定期的に学生の授業評価アンケートの結果を認識し、改善に活用しているが、それが教員個人に対してだけ開示されていることに問題を感じているとの認識を持っている。授業担当の教員同士の意思疎通は図られており、チームでの指導体制を推進している。平成23年度よりカリキュラムの改訂のため大幅な見直しが行われており、FD活動と結びつけてカリキュラム検討が行われていることは評価される。教員が学科の教育目標の達成状況を認識し、学生を履修および卒業に至るまで適切に指導を行っていることは確認された。

(6) 教職員は、図書館を通じて、またPC利用の技術を高めることによって、学生の学習向上のための支援を工夫し、努力していることは訪問調査において確認された。

(7) 学生の学習支援としては、適宜学生の状況に応じた形でオリエンテーションが行われ、必要な印刷物も整備されている。

(8) 学生の生活支援のために、学務部の教職員とグループ担当の教員が協力して学生指導・厚生補導を行っており、学生自治会、クラブ活動、学園行事などを支援する体制ができている。学生食堂は保護者組織から支援を受け学生負担を減らすなどキャンパスアメニティに配慮している。

(9) 学生への経済的援助が手厚い。日本学生支援機構による奨学金のほかに、頌栄短期大学奨学金（貸与）、頌栄保育学院貸与奨学金（貸与）、財団法人報国積善会奨学金(岸本奨学金)（給付）、エ・エル・ハウ奨学金（給付）、ケーリ記念奨学金（給付）がある。平成 24 年度の利用者は、日本学生支援機構によるもの 9 名、短大独自の奨学金によるもの 15 名であり充実している。

(10) グループアワーや教員との面談、学生の本音を拾うアンケートなど、学生の意見を受け止める努力をしている。障がい学生の受け入れ上問題なのは、キャンパスが高台に設置されておりバリアフリー化が難しいことであるが、平成 26 年度には工事を予定するなど対策を行っている。社会貢献活動として、ボランティア等地域に根差して活動するなど、学生の活動を支援している。

(11) キャリアガイダンスを 1 年次から計画的に行い、就職に向けての支援を着実にやっているといえる。また保護者会による漢字検定受験支援などは、学校の特徴を生かしたよい協力関係といえる。

(12) 入学者受け入れ方針は、学生募集要項に明確に示されており、入試係と入試委員会による事務体制が機能している。多様な入試の機会を設けて公正かつ正確な選抜を行っている。

【今後の課題】

(1) 学位授与の定期的な点検に取り組めていないとあるが、これらはほかのポリシーや学習成果との関連で、引き続き取り組むべき事柄であると判断される。

(2) 教育課程の定期的な見直しがなされていないこと、平成 24 年度の教員審査において、教員業績の積み増しが要請されるなど、適切な教育課程編成のために、一層の努力が必要とされるだろう。

(3) 学生の卒業後評価は対面による調査が主であり、今後、こうした聴取の成果を共有するとともに、定量的な評価の手段が必要とされるであろう。

(4) 事務職員は学科の学習成果の獲得に向けて責任を果たし、職務を通して貢献しているが、教育目標の達成度の把握をはじめ、SD 活動を通じて学生支援の職務を充実させるには、体制面等課題が残る状態であるといえる。

(5) 心身の健康面でも、学生相談室を設置して対応しているが、独立した保健室が必要ではないかと思われる。多様な学生支援の専門性をもった職員の育成や、主として設備面での福利厚生改善が必要な点が残っている点があげられる。

(6) 進路支援は、教員と職員のチームにより行っているが進路支援室に常駐の職員がいないことが難点である。個別指導のための部屋を整備する計画がある。

(7) 入学決定後の学生に対する指導も適切に行われているが、学生の資質の多様化に見合った選抜方法や基準の見直しが必要とされる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源について

【評価できる点】

(1) 教員組織は短期大学設置基準を満たし、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに謳う教育を十分行えるように編成している。学科の教員組織は、短期大学設置基準に定める数を充足し、専任教員の職員は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、社会貢献等により、質的にも設置基準の規定を充足している。

事務局員が12名で、事務職員会を行行情報や業務に関し共有している。

(2) 校舎・校地・施設整備などの物的資源は、基準を満たす形で整備されており、学生の学びやすい環境整備が進められている。また、危機管理への対策も進められている。

例えば、図書館は学生の必要を満たす形で整備され、また社会貢献にもよく活用されている。施設設備については、管理規程に基づいて管理され、火災や防犯対策の諸規程も整備されている。コンピュータ設備は専門の業者に委託して安全対策を行っている。

【今後の課題】

(1) 職員は人数の少ない中で業務の遂行や改善に努めているとみられるが、人員配置の点で改善が必要とみられる。人事管理においても、一部教員・職員に負担が偏りやすい傾向がある。

例えば、教育実績に対しての研究業績を求められているが、教員は学内分掌や高校訪問、幼稚園・保育園等への訪問等の役割を担っており、研究・研修への時間の確保が困難な状況にある。今後、教員のための研究機会と時間の確保が望まれる。また授業の円滑な実施や教員負担軽減のため、補助教員等の配置も検討されたい。職員についても、適切な補助者の配置も必要であろう。

(2) バリアフリー環境の整備と、安全対策の実施を検討されたい。

(3) 今後コンピュータの安全に対する学内委員会等の取組が予定されているが、引き続き発展されることを期待したい。

5.おわりに

懸案であった、頌栄短期大学との相互評価を終えて、ほっとした、というのが実感です。初めてのことばかりで、また自己点検・評価報告書の作り方も、昨年までと全く違った形であり、評価に関わる姿勢そのもの、また教育内容の質を一層問われる形での評価活動が必要であることを痛感致しました。

頌栄短期大学とは、同じキリスト教を建学の精神とする、小規模の短期大学として、互いの現状の困難を認識しつつも、学ぶことの多い、実りある相互評価の機会であったと思います。

短期大学としての教育の質の向上と共に、それを支える教学の体制を見直し、小規模ながら自分たちの独自性を発揮し、イエス・キリストの言葉にあるように、「地の塩、世の光」としての教育の役割を果たすべく、進んでまいりたいと思います。

共に相互評価の機会を通して、多くのことを学ばせて頂いた、頌栄短期大学の阿部恩学長先生はじめ、諸先生方、スタッフの皆さまにも、心より御礼申し上げたく存じます。

大阪キリスト教短期大学 学長 池田美芽

頌栄短期大学・大阪キリスト教短期大学
相互評価報告書

平成 26 (2014) 年 3 月発行

編集 大阪キリスト教短期大学
頌栄短期大学

発行 大阪キリスト教短期大学
〒545-0042
大阪府大阪市阿倍野区丸山通 1-3-61
TEL 06-6652-2091
FAX 06-6652-2068
<http://www.occ.ac.jp/>

頌栄短期大学
〒658-0065
兵庫県神戸市東灘区御影山手 1-18-1
TEL 078-842-2541
FAX 078-851-2154
<http://www.glory-shoei.ac.jp/>